

平成23年社会生活基本調査

結果の概要

平成24年12月

宮崎県総合政策部統計調査課

目 次

社会生活基本調査の概要及び用語と分類	1
--------------------------	---

【生活行動関係】

1 学習・自己啓発・訓練	8
2 ボランティア活動	11
3 スポーツ	16
4 趣味・娯楽	21
5 旅行・行楽	26
行動者率全国ランキング	31

【生活時間関係】

1 1日の生活時間の配分	32
2 1次活動（睡眠）	36
3 2次活動（仕事、家事関連）	37
4 3次活動（消極的自由時間活動、積極的自由時間活動）	41
5 平均時刻	45

統計表	46
-----------	----

平成 23 年社会生活基本調査の概要

1 調査内容

1 日の生活時間の配分及び自由時間等における 1 年間の主な活動

2 調査基準日

平成 23 年 10 月 20 日現在（※ただし、生活時間の配分についての調査は、10 月 15 日から 10 月 23 日までの 9 日間のうちから、調査区ごとに指定された連続する 2 日間とした。）

3 調査対象地域

平成 17 年国勢調査の調査区で総務大臣により指定された県内 120 調査区

4 調査対象

上記 3 の調査区内から 1 調査区当たり 12 世帯を無作為抽出し、当該世帯に居住する 10 歳以上の世帯員 3、040 人。

用語と分類（生活行動関係）

1 過去 1 年間に行った活動

この調査では、「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」及び「旅行・行楽」について、過去 1 年間（平成 22 年 10 月 20 日～23 年 10 月 19 日）に、それぞれの種類別に活動を行ったか否か等を調査した。

(1) 学習・自己啓発・訓練

個人の自由時間の中で行う学習・自己啓発・訓練で、社会人が仕事として行うものや、学生が学業として行うものは除く。学習・自己啓発・訓練については、その内容を次の 9 種類に分類し調査した。

- ・ 英語
- ・ 英語以外の外国語
- ・ パソコンなどの情報処理
- ・ 商業実務・ビジネス関係
- ・ 介護関係
- ・ 家政・家事（料理・裁縫・家庭経営など）
- ・ 人文・社会・自然科学（歴史、経済、数学、生物など）
- ・ 芸術・文化
- ・ その他

(2) ボランティア活動

報酬を目的としないで自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のために行う活動をいう。活動のための交通費など実費程度の金額の支払いを受けても報酬とみなさず、その活動はボランティア活動に含む。

なお、ボランティア団体が開催する催し物などへの単なる参加は除く。

ボランティア活動については、次の11種類に分類し調査した。

- ・健康や医療サービスに関係した活動
(献血、入院患者の話し相手、安全な食品を広めることなど)
- ・高齢者を対象とした活動
(高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど)
- ・障害者を対象とした活動
(手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など)
- ・子供を対象とした活動
(子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど)
- ・スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動
(スポーツを教えること、日本古来の文化を広めること、美術館ガイド、講演会・シンポジウム等の開催など)
- ・まちづくりのための活動
(道路や公園等の清掃、花いっぱい運動、まちおこしなど)
- ・安全な生活のための活動
(防災活動、防犯活動、交通安全運動など)
- ・自然や環境を守るための活動
(野鳥の観察と保護、森林や緑を守る活動、リサイクル運動、ゴミを減らす活動など)
- ・災害に関係した活動
(災害を受けた人に食べものや着るものを送ること、炊き出しなど)
- ・国際協力に関係した活動
(海外支援協力、難民支援、日本にいる外国人への支援活動など)
- ・その他
(人権を守るための活動、平和のための活動など)

(3) スポーツ

個人の自由時間の中で行うスポーツをいう。

学生が体育の授業で行うものや職業スポーツ選手が仕事として行うものを除き、次の 22 種類に分類し調査した。

- ・野球(キャッチボールを含む)
- ・ソフトボール
- ・バレーボール
- ・バスケットボール
- ・サッカー (フットサルを含む)
- ・卓球
- ・テニス
- ・バドミントン
- ・ゴルフ (練習場を含む)
- ・柔道
- ・剣道
- ・ゲートボール
- ・ボウリング
- ・つり
- ・水泳
- ・スキー・スノーボード
- ・登山・ハイキング
- ・サイクリング
- ・ジョギング・マラソン
- ・ウォーキング・軽い体操
- ・器具を使ったトレーニング
- ・その他のスポーツ

(4) 趣味・娯楽

個人の自由時間の中で行うものをいい、次の 34 種類に分類し調査した。

- ・スポーツ観覧 (テレビ・DVDなどは除く)
- ・美術鑑賞 (テレビ・DVDなどは除く)
- ・演芸・演劇・舞踊鑑賞 (テレビ・DVDなどは除く)
- ・映画鑑賞 (テレビ・ビデオ・DVDなどは除く)
- ・音楽会などによるクラシック音楽鑑賞
- ・音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞
- ・CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞
- ・DVD・ビデオなどによる映画鑑賞
(テレビからの録画は除く)
- ・楽器の演奏
- ・邦楽 (民謡、日本古来の音楽を含む)
- ・コーラス・声楽
- ・邦舞・おどり
- ・洋舞・社交ダンス
- ・書道
- ・華道
- ・茶道
- ・和裁・洋裁
- ・編み物・手芸
- ・趣味としての料理・菓子作り
- ・園芸・庭いじり・ガーデニング
- ・日曜大工
- ・絵画・彫刻の制作
- ・陶芸・工芸
- ・写真の撮影・プリント
- ・詩・和歌・俳句・小説などの創作
- ・趣味としての読書
- ・囲碁
- ・将棋
- ・パチンコ
- ・カラオケ
- ・テレビゲーム、パソコンゲーム
(家庭で行うもの。携帯用を含む)
- ・遊園地、動植物園、水族館などの見物
- ・キャンプ
- ・その他の趣味・娯楽

(5) 旅行・行楽

仕事や学業などを含めた旅行・行楽を対象としている。

旅行とは、1泊2日以上にわたって行うすべての旅行をいう。行楽とは、日常生活圏を離れて宿泊を伴わず半日以上かけて行うものをいい、夜行日帰りを含む。

旅行・行楽については、次の6種類に分類し調査した。

- ・行楽（半日以上の日帰りをいい、夜行日帰りも含む）
- ・国内観光旅行（レクリエーション・スポーツなどのための旅行を含む）
- ・国内帰省・訪問などの旅行
- ・国内業務出張・研修・その他
- ・海外観光旅行（レクリエーション・スポーツなどのための旅行を含む）
- ・海外業務出張・研修・その他

2 行動者数、行動者率、平均行動日数

(1) 行動者数

行動者数は過去1年間に該当する種類の活動を行った人の数。なお、数値は母集団における行動者数の推定値である。

(2) 行動者率

行動者率は行動者数÷人口×100（%）で計算される割合。

(3) 平均行動日数

行動者について平均した過去1年間（平成22年10月20日～23年10月19日）の行動日数。活動頻度別の行動者数に基づき、次の式により算出した。

$$\frac{\sum (\text{頻度階級の中央値} \times \text{頻度階級の行動者数})}{\sum \text{頻度階級の行動者数}}$$

Σ 頻度階級の行動者数

なお、各頻度階級の中央値は次の値とした。

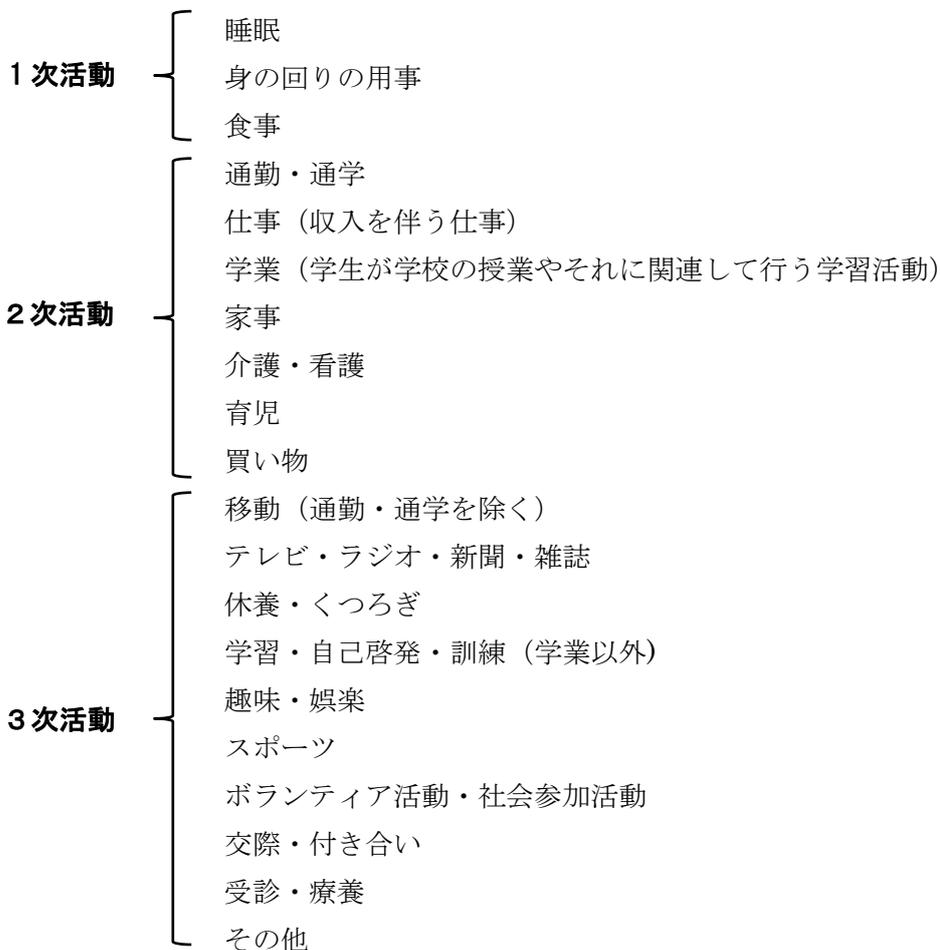
頻度階級	中央値
年に1～4日	2.5日
年に5～9日	7.0日
年に10～19日（月に1日）	14.5日
年に20～39日（月に2～3日）	29.5日
年に40～99日（週に1日）	69.5日
年に100～199日（週に2～3日）	149.5日
年に200日以上（週に4日以上）	282.5日

用語と分類（生活時間関係）

1 行動の種類

1日の行動を20種類に分類し、時間帯（15分単位）別の行動状況（同時に2種類以上の行動をした場合は、主なもの一つ）を調査した。

20種類の行動は大きく3つの活動にまとめ、1次活動（睡眠、食事など生理的に必要な活動）、2次活動（仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動）及び3次活動（1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動）とした。



また、必要に応じ次の区分を用いた。

- ・家事関連……………家事、介護・看護、育児及び買い物
- ・休養等自由時間活動…テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ
- ・積極的自由時間活動…学習・自己啓発・訓練（学業以外）、趣味・娯楽、
スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動
- ・仕事等……………通勤・通学、仕事及び学業

2 平均時間

行動の種類別平均時間は、一人1日当たりの平均行動時間数で、次の種類がある。

- ・総平均……該当する種類の行動をしなかった人を含む全員についての平均
- ・行動者平均……該当する種類の行動をした人のみについての平均
- ・曜日別平均……調査の曜日ごとに平均値を算出したもの。
- ・週全体平均……次の式により曜日別結果を平均して算出した。

$$\frac{(\text{月曜日平均} + \dots + \text{日曜日平均})}{7}$$

7

ただし、ある曜日に当該属性を持つ客体が存在しない場合は以下のとおり算出した。

- ・週全体の総平均時間

$$\frac{(5 \times \text{平日平均} + \text{土曜日平均} + \text{日曜日平均})}{7}$$

7

- ・週全体の行動者平均時間

$$\frac{(\text{月曜日平均} + \dots + \text{日曜日平均})}{\text{月曜日} \sim \text{日曜日の当該行動者のいる曜日数}}$$

月曜日～日曜日の当該行動者のいる曜日数

3 平均時刻

連続する2日間の時間帯別の行動の状況から、主な行動の開始又は終了時刻を1日目の午前0時からの経過時間数とし、次の式により平均時刻を算出した。なお、結果表章に用いている曜日は1日目の曜日である。

$$\frac{\Sigma (\text{1日目午前0時からの経過時間数} \times \text{行動者数})}{\text{行動者数}}$$

行動者数

各行動の開始又は終了時刻は、次のとおりとした。

- ・起床時刻
12時前に始まり、60分を超えて続く最初の睡眠の終了時刻。なお、睡眠と睡眠の間の睡眠以外の行動が30分以内の場合は睡眠が続いているとした。
- ・朝食開始時刻
4時以降、11時前に始まる最初の食事開始時刻
- ・夕食開始時刻
16時以降、24時（翌日0時）前に始まる最初の食事開始時刻

- ・ 就寝時刻

17 時以降、36 時（翌日 12 時）前に始まり、60 分を超えて続く睡眠の開始時刻。該当の睡眠が 2 行動以上ある場合は、睡眠継続時間が最長の睡眠（継続時間が同じ場合は、早く現れる方の睡眠）の開始時刻とした。

また、睡眠と睡眠の間の睡眠以外の行動が 30 分以内の場合は、睡眠が続いているとした。

- ・ 出勤時刻

0 時 15 分以降、24 時（翌日 0 時）前に始まる最初の仕事の前にある通勤・通学の開始時刻。最初の仕事の前に通勤・通学がなく、他の仕事の前に通勤・通学がある場合は、最初の仕事を前日からの仕事又は持ち帰り仕事とみなし、その次に現れる仕事の前の通勤・通学の開始時刻とした。他の仕事の前にも通勤・通学がない場合は最初の仕事の開始時刻とした。

- ・ 仕事からの帰宅時刻

0 時 15 分以降、24 時（翌日 0 時）前に始まる最後の仕事の後にある通勤・通学の終了時刻。最後の仕事の後に通勤・通学がなく、それ以前に現れる仕事の後に通勤・通学がある場合は、最後の仕事を持ち帰り仕事とみなし、それ以前に現れる仕事の後にも通勤・通学がない場合は最後の仕事の終了時刻とした。

なお、最後の仕事の後に通勤・通学はないが、仕事の前に通勤・通学があり、かつそれ以前の仕事の後にも通勤・通学がある場合は、変則勤務又は複数の仕事に従事しているとみなし、仕事からの帰宅時刻は「不詳」とした。

【生活行動関係】

1 学習・自己啓発・訓練

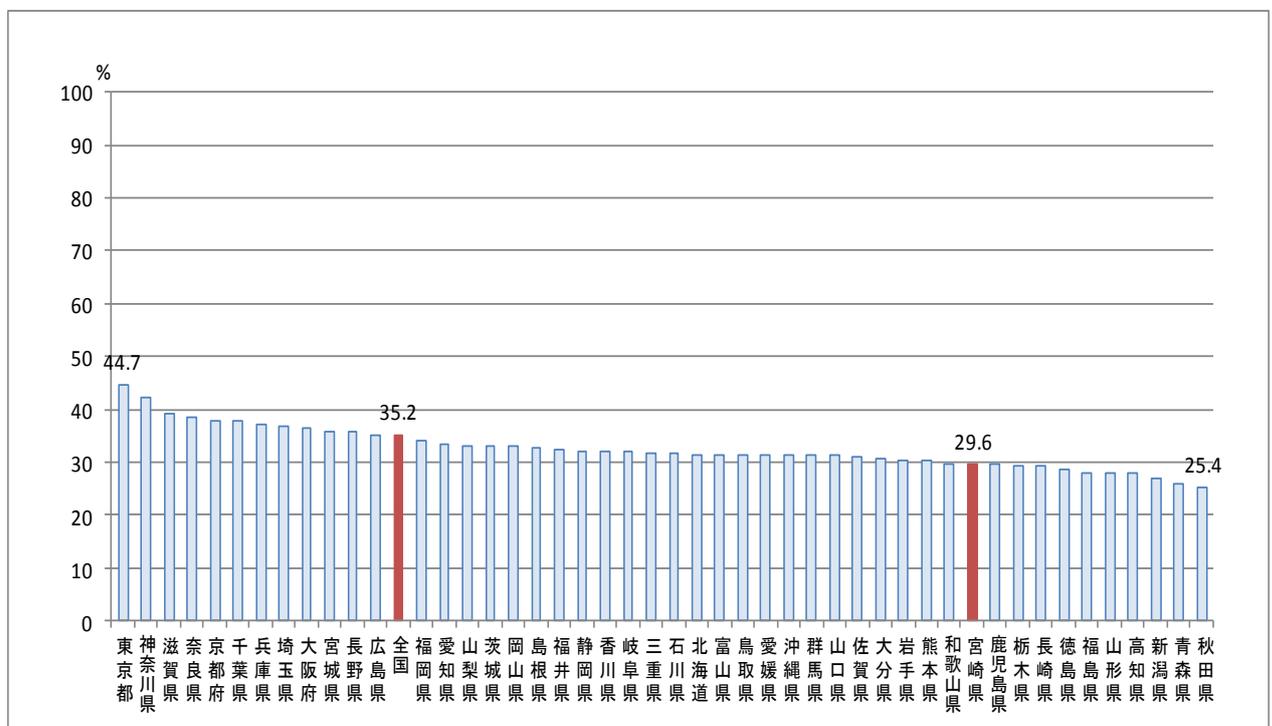
(1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は29万4千人、行動者率は29.6%。

過去1年間（平成22年10月20日～23年10月19日。以下同じ）に本県の10歳以上（推定99万2千人。以下同じ）で「学習・自己啓発・訓練」を行った人の数（行動者数。以下同じ。）は29万4千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率。以下同じ。）は29.6%となっている。これは全国平均の35.2%に比べ5.6ポイント低く、全国順位で見ると第37位となっている。

男女別にみると、行動者数は男性が13万6千人、女性が15万8千人となっており、行動者率は男性が29.3%、女性が29.9%で、女性が男性より0.6ポイント高くなっている。

本県の行動者率は平成18年と比べると、0.3ポイント上昇している。これを男女別にみると、ともに0.3ポイントの上昇となっている。（図1-1）

図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率（10歳以上）

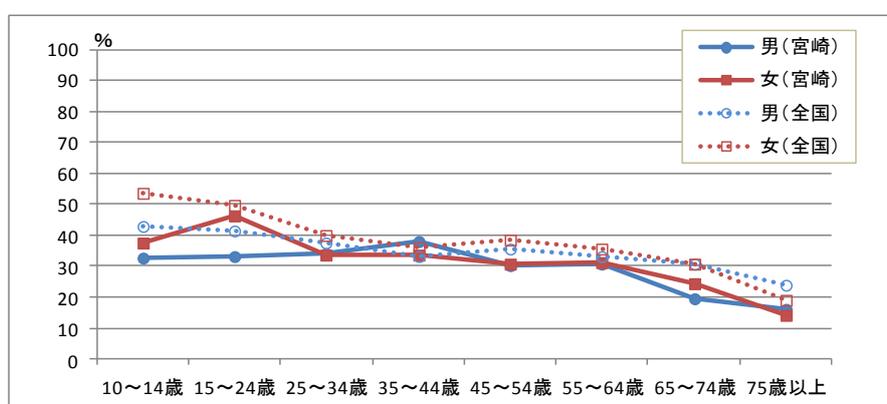


(2) 男女ともにほとんどの年齢階級で行動者率が全国平均を下回る。

本県の男女別、年齢別に行動者率をみると、若い世代では女性の方が男性を上回っており、特に15～24歳では女性と男性の差は13.3ポイントとなっている。

また、本県と全国を比べてみると、男性は35～44歳のみ全国平均を上回り、その他の年齢階級ではすべて全国平均を下回っている。特に10～14歳、65～74歳では大きく下回っている。女性はすべての年齢階級で全国平均を下回っており、特に10～14歳では大きく下回っている。(図1-2)

図1-2 本県と全国の男女別、年齢階級別「学習・自己啓発・訓練」行動者率

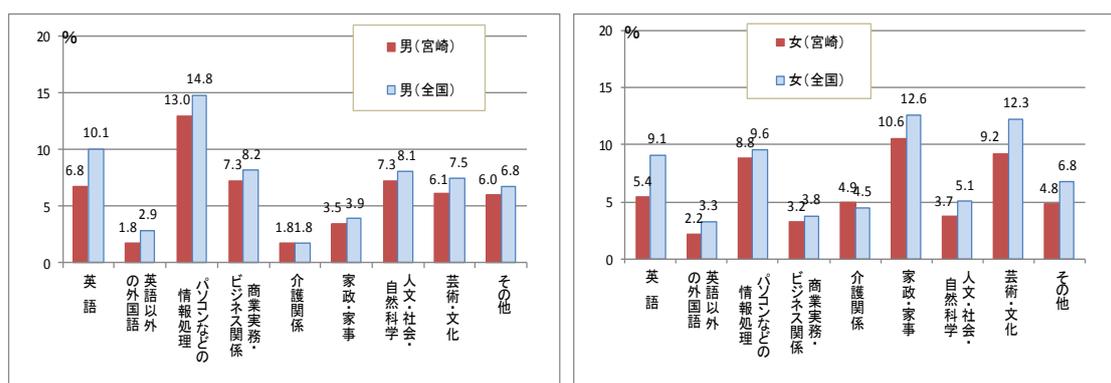


(3) 男女ともに「介護関係」の行動者率以外は全国を下回る。

種類別に本県の行動者率をみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が最も高く、次いで「商業実務・ビジネス関係」、「人文・社会・自然科学」が高い。女性は「家政・家事」が最も高く、次いで「芸術・文化」、「パソコンなどの情報処理」の順となっている。

全国と比較すると、男女ともに介護関係は全国平均と同水準か上回っているが、その他の種類はすべて全国平均を下回っている。特に英語は男女ともに全国平均を大きく下回っている。(図1-3)

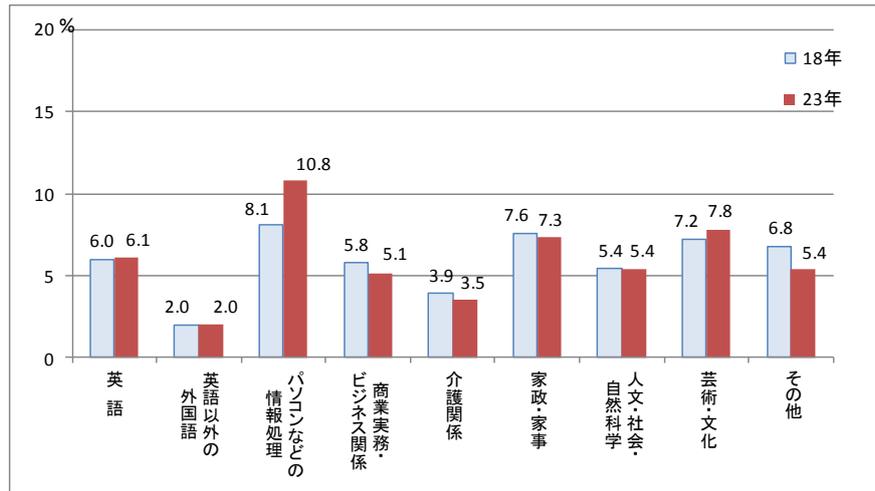
図1-3 本県と全国の男女別、種類別「学習・自己啓発・訓練」行動者率



(4) 「パソコンなどの情報処理」が5年前と比べて上昇。

本県の行動者率を種類別に5年前と比較すると、上昇が一番大きいものは「パソコンなどの情報処理」で2.7ポイントの上昇、低下が一番大きいものは「商業実務・ビジネス関係」で0.7ポイントの低下となっている。(図1-4)

図1-4 本県の「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率(平成18年、23年)

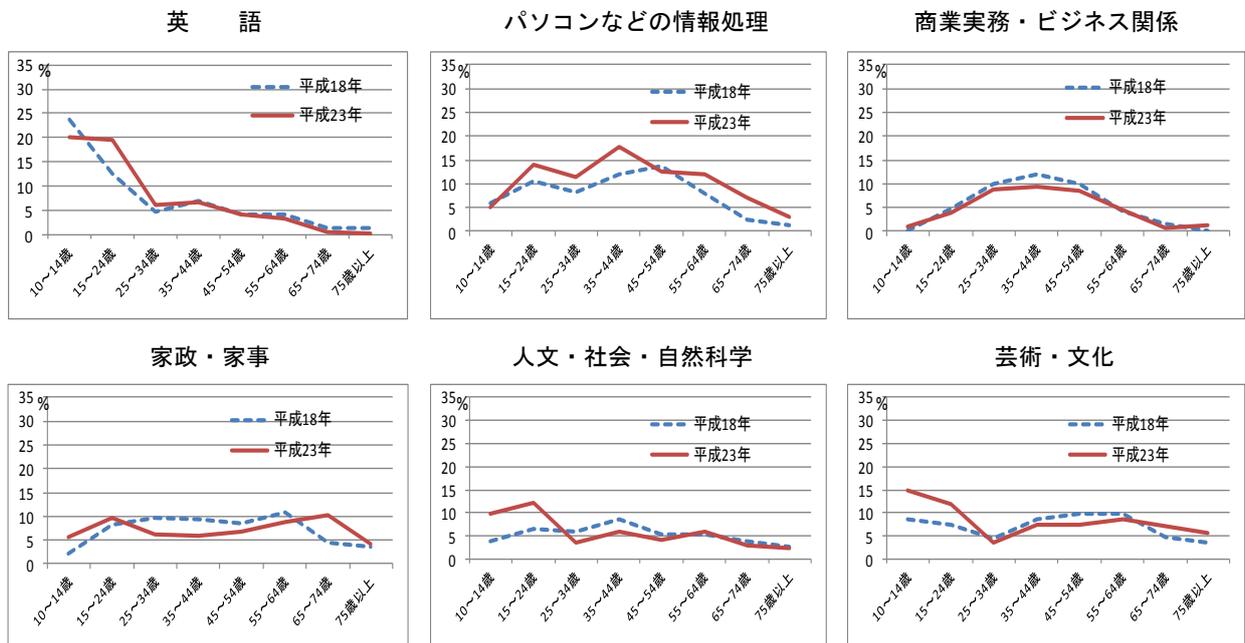


(5) ほとんどの年齢階級で「パソコンなどの情報処理」が上昇。

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「パソコンなどの情報処理」はほとんどの年齢階級で上昇している。

また10~24歳については、「人文・社会・自然科学」、「芸術・文化」が上昇している。(図1-5)

図1-5 本県の「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)



2 ボランティア活動

(1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は27万6千人、行動者率は27.8%。

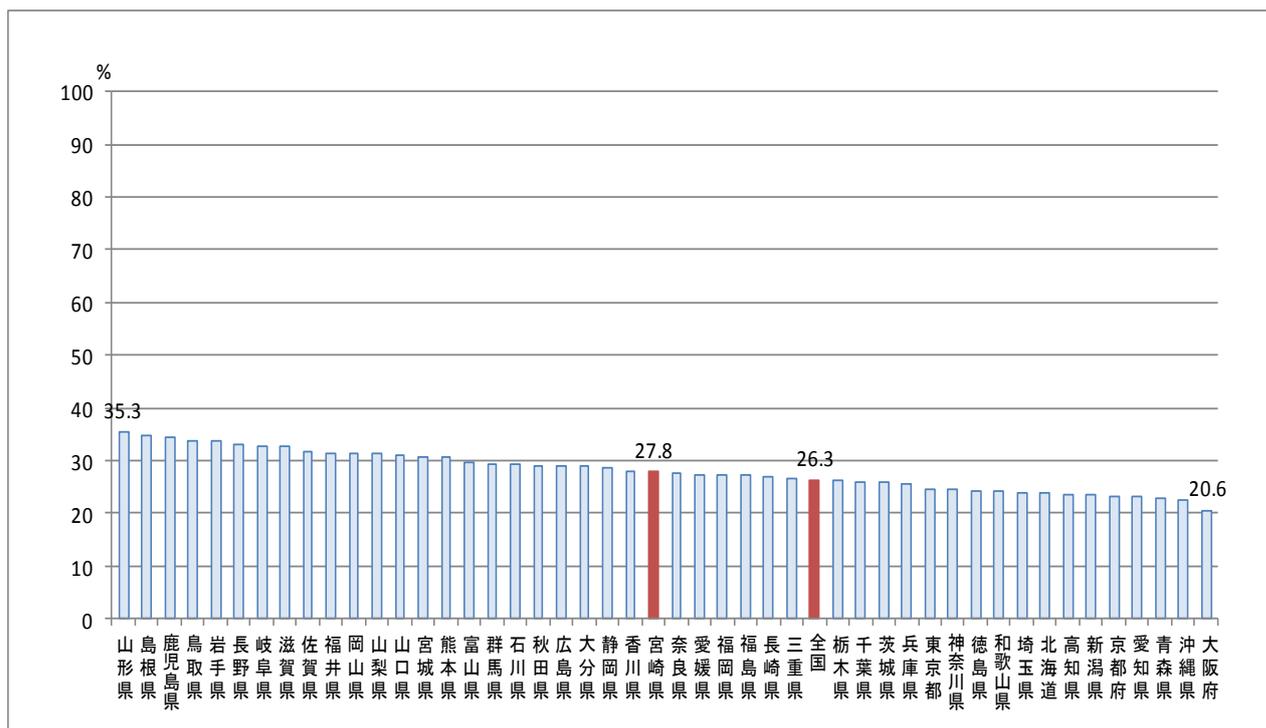
過去1年間の本県の10歳以上の「ボランティア活動」の行動者数は27万6千人で、10歳以上の行動者率は27.8%となっている。これは全国平均の26.3%に比べ1.5ポイント高く、全国順位で見ると第23位となっている。

男女別にみると、行動者数は男性が13万6千人、女性が14万人となっており、行動者率は男性が29.3%、女性が26.5%で、男性が女性より2.8ポイント高くなっている。

本県の行動者率は平成18年と比べると、3.2ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が1.8ポイント低下、女性が4.4ポイント低下となっている。

(図2-1)

図2-1 「ボランティア活動」の行動者率（10歳以上）

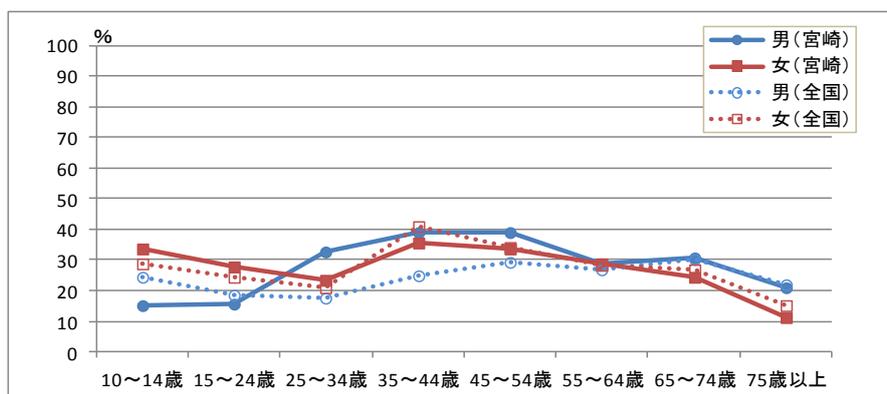


(2) 特に男性は25～54歳、女性は10～24歳が全国平均を上回る。

本県の男女別、年齢別に行動者率をみると、10～24歳では女性が男性を上回り、25～54歳及び65歳以上については男性が女性を上回っている。

また、本県と全国を比べてみると、男性の25～74歳は全国平均を上回り、それ以外では全国平均を下回っている。女性は10～34歳と55～64歳は全国平均を上回り、それ以外では全国平均を下回っている。(図2-2)

図2-2 本県と全国の男女別、年齢階級別「ボランティア活動」行動者率

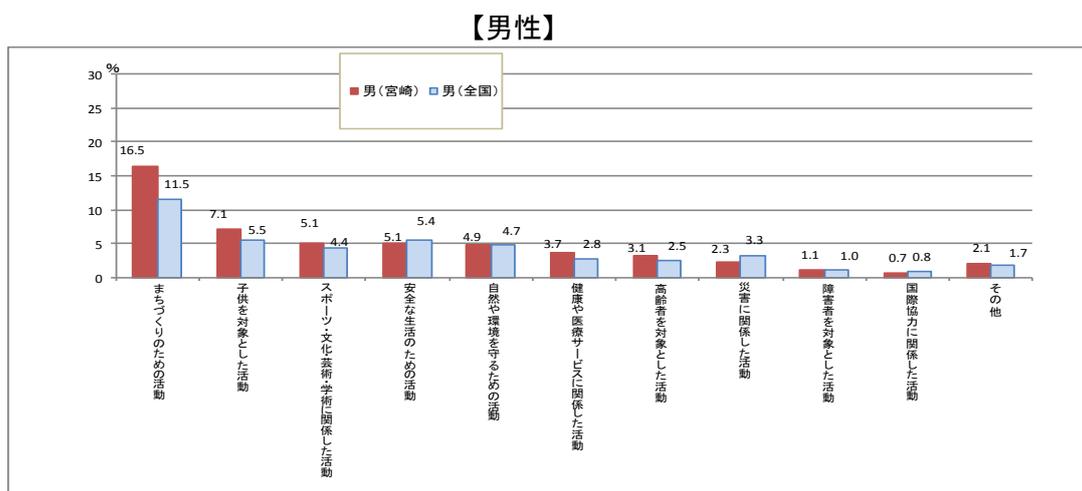


(3) 男女ともに「まちづくりのための活動」、「子供を対象とした活動」の行動者率が高い。

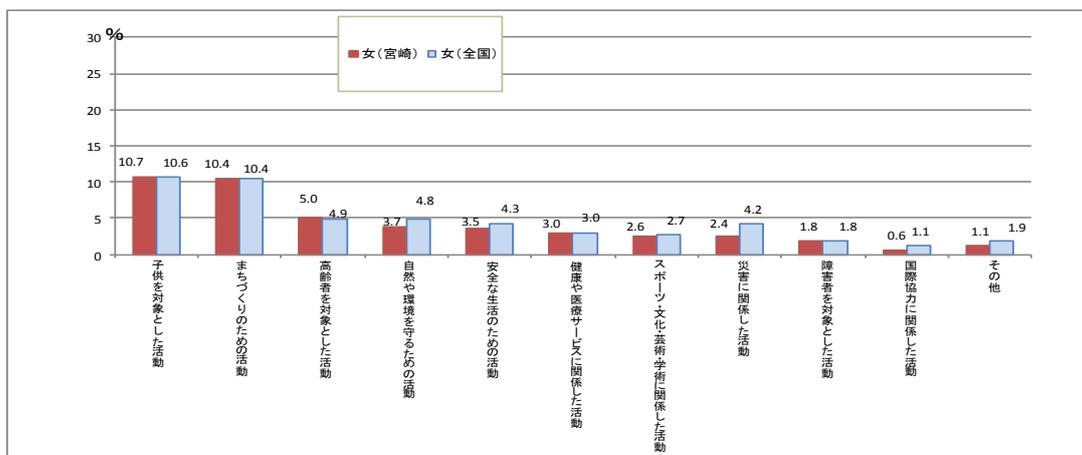
種類別に本県の行動者率をみると、男性は「まちづくりのための活動」が最も高く、次いで「子供を対象とした活動」、「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」が高い。女性は「子供を対象とした活動」が最も高く、次いで「まちづくりのための活動」、「高齢者を対象とした活動」の順となっている。

全国と比較すると、男性では「まちづくりのための活動」が全国平均を5.0ポイントも上回っているが、女性では特に大きく上回っている種類はない。また「災害に関する活動」は男性が1.0ポイント、女性が1.8ポイントそれぞれ全国平均を下回っている。(図2-3)

図2-3 本県と全国の男女別、種類別「ボランティア活動」行動者率



【女性】

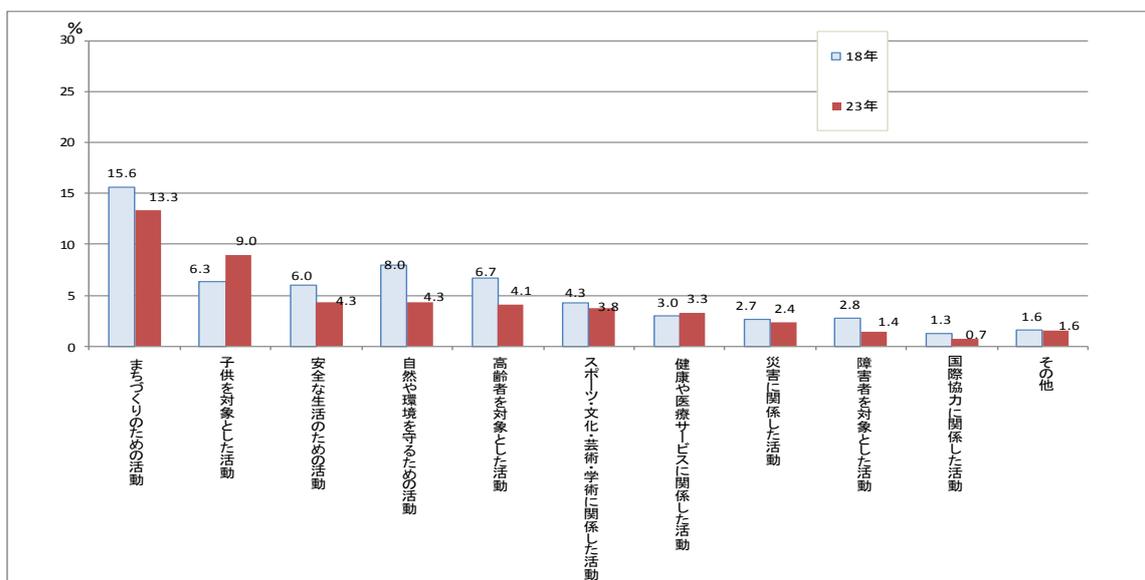


(4) 「子供を対象とした活動」が5年前と比べて上昇。

本県の行動者率を種類別に5年前と比較すると、ほとんどの種類で低下している。

上昇が一番大きいものは「子供を対象とした活動」で2.7ポイントの上昇、次いで「健康や医療サービスに関係した活動」が0.3ポイントの上昇となっている。低下が一番大きいものは「自然や環境を守るための活動」で3.7ポイントの低下、次いで「高齢者を対象とした活動」が2.6ポイントの低下となっている。(図2-4)

図2-4 本県の「ボランティア活動」の種類別行動者率(平成18年、23年)

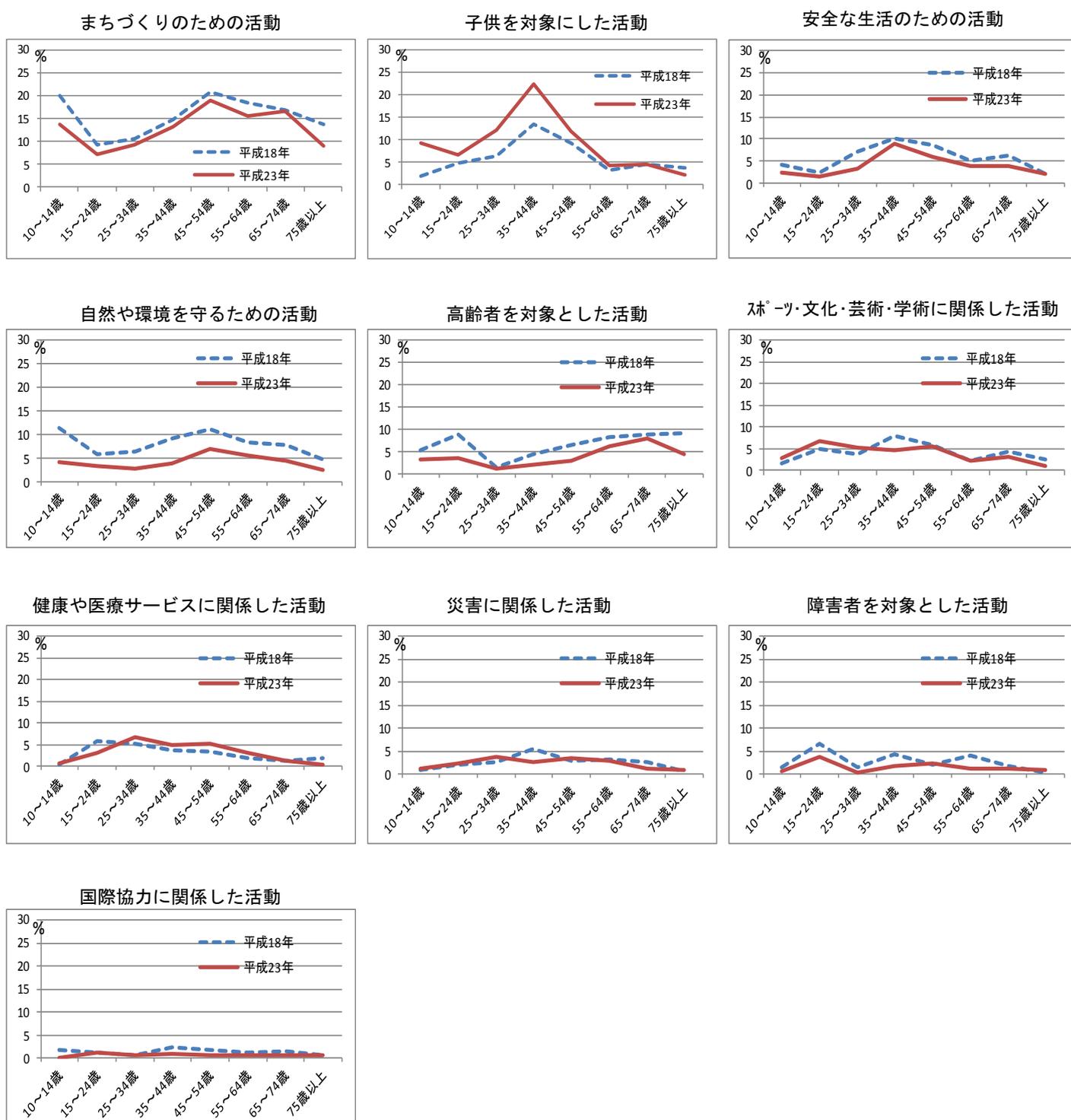


(5) 「子供を対象とした活動」は10～44歳の階級で5年前を大きく上回る。

「ボランティア活動」の行動者率を種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「子供を対象とした活動」は10～44歳の階級で5年前を大きく上回っている。

一方、「まちづくりのための活動」、「自然や環境を守るための活動」、「高齢者を対象とした活動」は、すべての年齢階級で5年前を下回っている。(図2-5)

図2-5 本県の「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

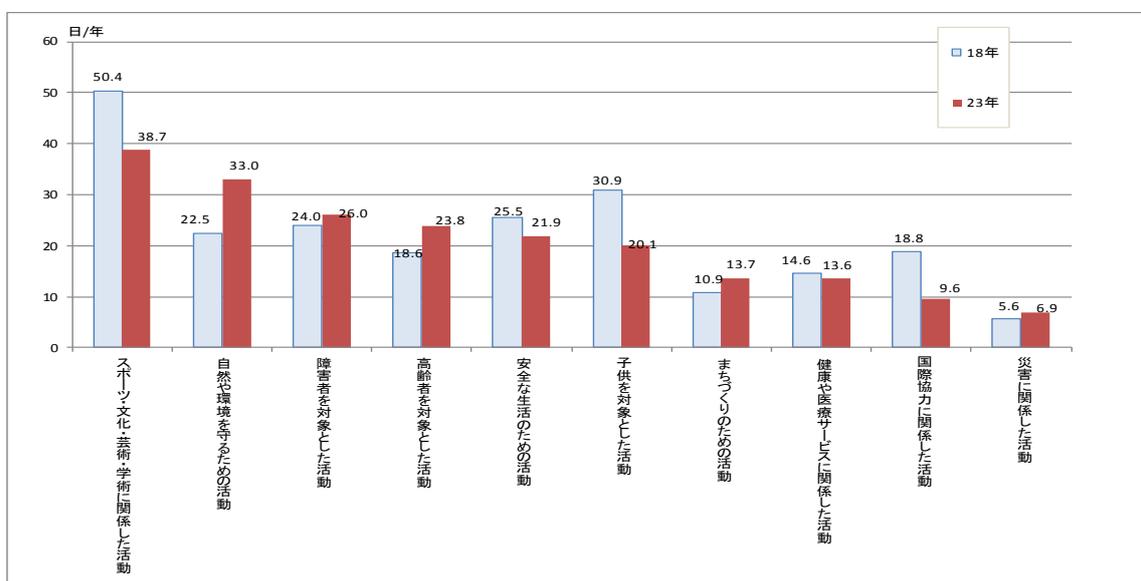


(6) 平均行動日数は「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」が最も多い。

行動者について平均した過去1年間の行動日数（平均行動日数。以下同じ。）を種類別にみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」が38.7日と最も多く、次いで「自然や環境を守るための活動」が33.0日などとなっている。

平成18年と比べると、「自然や環境を守るための活動」が10.5日増加、「高齢者を対象とした活動」が5.2日増加、「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」が11.7日減少、「子供を対象とした活動」が10.8日減少などとなっている。（図2-6）

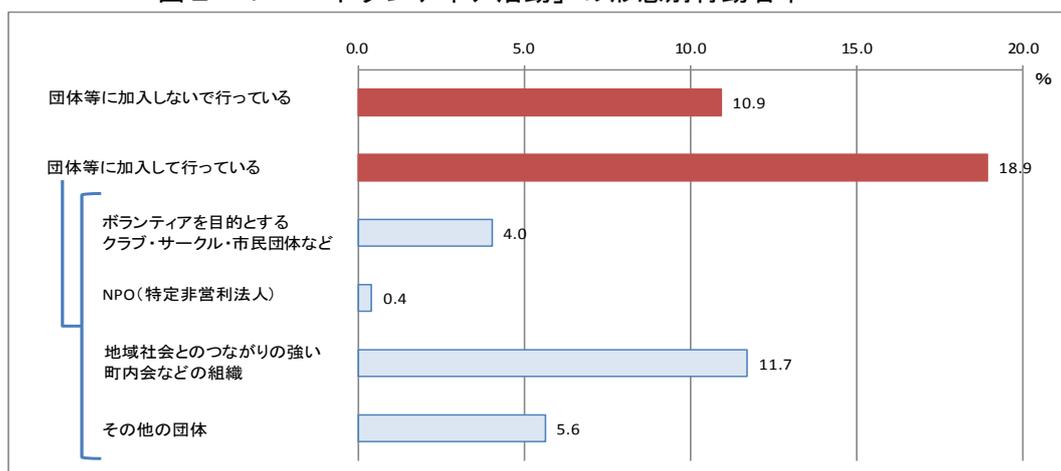
図2-6 「ボランティア活動」の種類別平均行動日数（平成18年、23年）



(7) 「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての行動者率が最も高い。

「ボランティア活動」の行動者率を形態別にみると、団体等に参加して行っている活動が、参加しないで行っている活動よりも高くなっている。（図2-7）

図2-7 「ボランティア活動」の形態別行動者率



3 スポーツ

(1) 1年間に「スポーツ」を行った人は61万4千人、行動者率は61.9%。

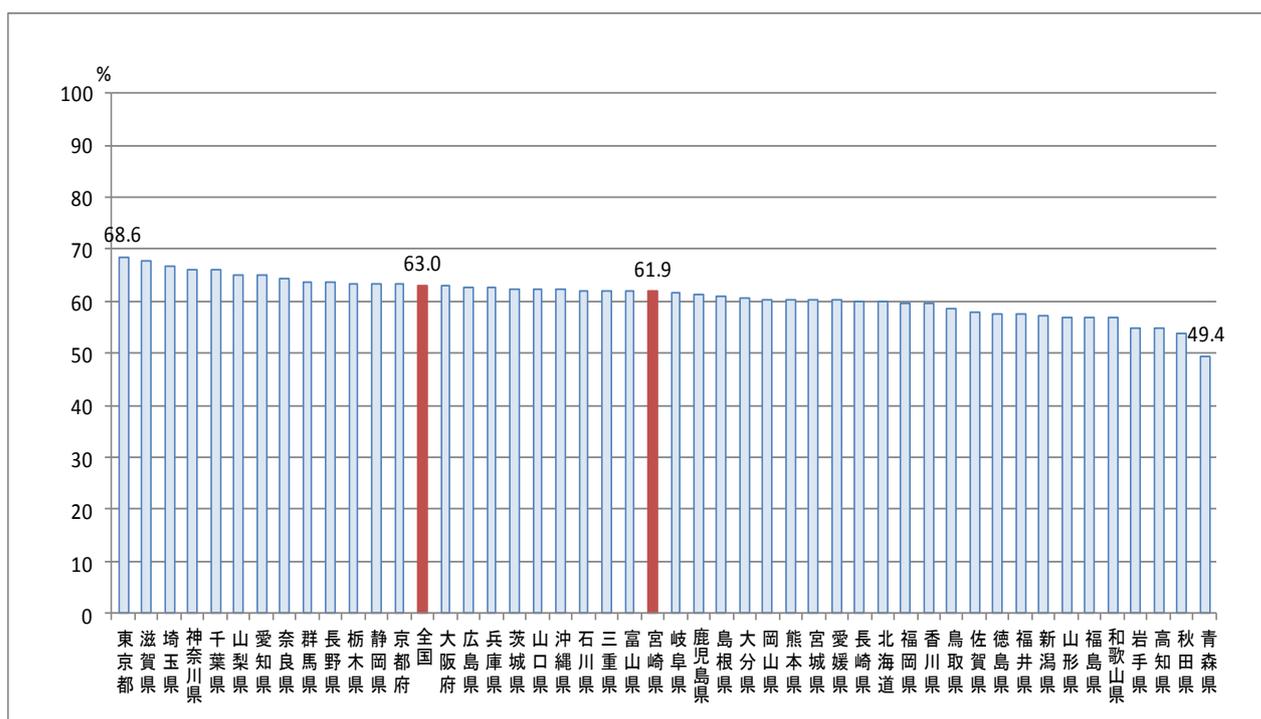
過去1年間の本県の10歳以上の「スポーツ」の行動者数は61万4千人で、10歳以上の行動者率は61.9%となっている。これは全国平均の63.0%に比べ1.1ポイント低く、全国順位で見ると第23位となっている。

男女別にみると、行動者数は男性が31万5千人、女性が29万9千人となっており、行動者率は男性が67.8%、女性が56.7%で、男性が女性より11.1ポイント高くなっている。

本県の行動者率は平成18年と比べると、4.6ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が3.4ポイント低下、女性が5.7ポイント低下となっている。

(図3-1)

図3-1 「スポーツ」の行動者率（10歳以上）

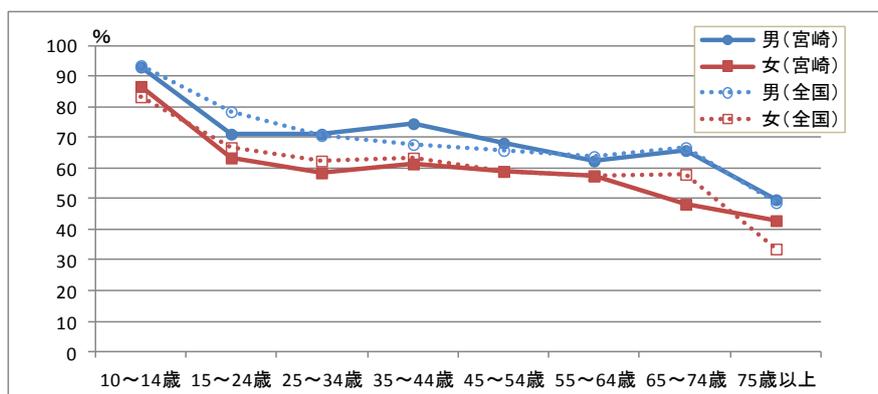


(2) すべての年齢階級で男性の行動者率が女性を上回る。

本県の男女別、年齢別に行動者率をみると、すべての年齢階級で男性が女性を上回っている。特に25～44歳、65～74歳での差が大きい。

また、本県と全国を比べてみると、男性の10～24歳及び55～74歳は全国平均を下回り、25～54歳及び75歳以上は全国平均を上回っている。女性は10～14歳、75歳以上のみ全国平均を上回っている。(図3-2)

図3-2 本県と全国の男女別、年齢階級別「スポーツ」行動者率

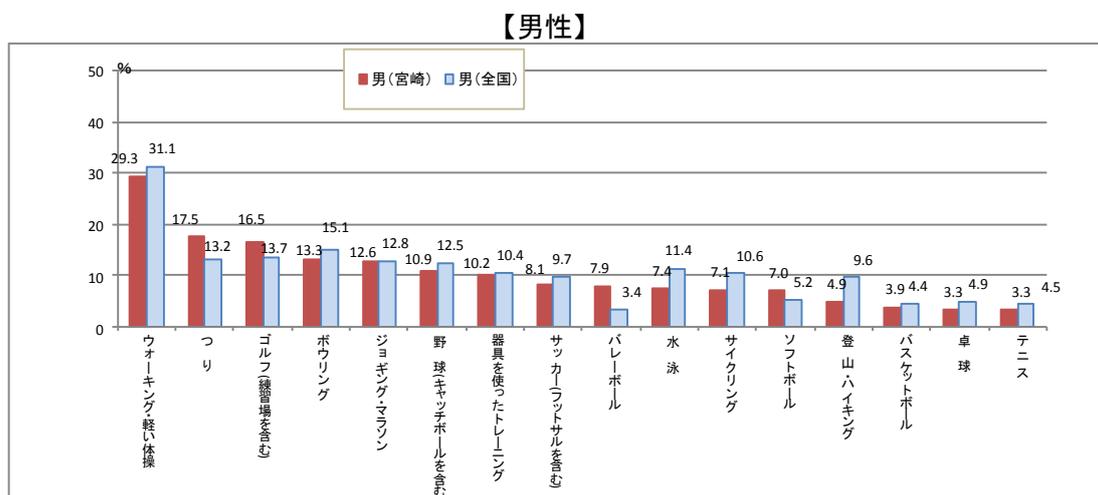


(3) 男女ともに「バレーボール」が全国1位。

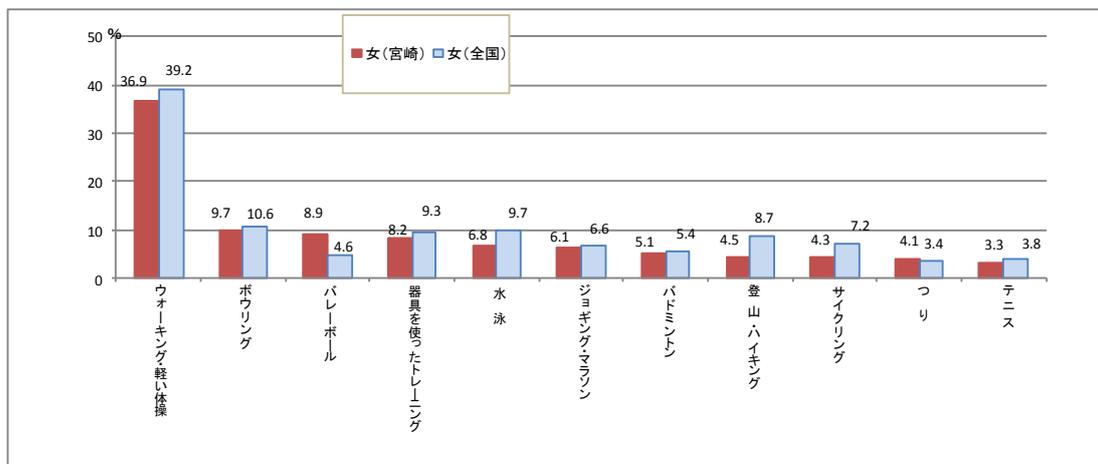
種類別に本県の行動者率をみると、男性は「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで「つり」、「ゴルフ」が高い。女性は「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで「ボウリング」、「バレーボール」の順となっている。

全国と比較すると、男女とも「バレーボール」が全国平均を4ポイント以上上回っており、総数(8.4%)、男女ともに全国1位となっている。一方、「登山・ハイキング」は全国平均を4ポイント以上下回っている。その他、男性については、「つり」が全国平均を上回っているのが目立つ。(図3-3)

図3-3 本県と全国の男女別、種類別「スポーツ」行動者率



【女性】



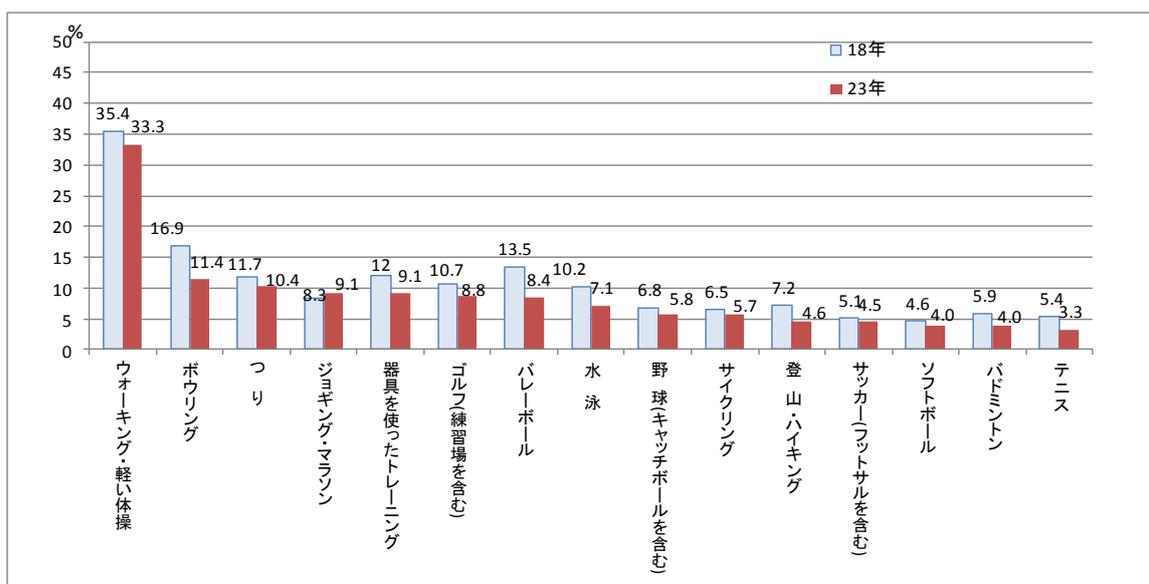
注) 行動者率 3%以上を表章。

(4) ほとんどの種類で行動者率が5年前を下回る。

本県の行動者率を種類別に5年前と比較すると、ほとんどの種類で行動者率が下落している。低下が一番大きいものは「ボウリング」で5.5ポイントの低下、次いで「バレーボール」が5.1ポイントの低下となっている。

一方上昇したものは2種類のみで、「ジョギング・マラソン」が0.8ポイントの上昇、「スキー・スノーボード」が0.1ポイントの上昇となっている。(図3-4)

図3-4 本県の「スポーツ」の種類別行動者率(平成18年、23年)



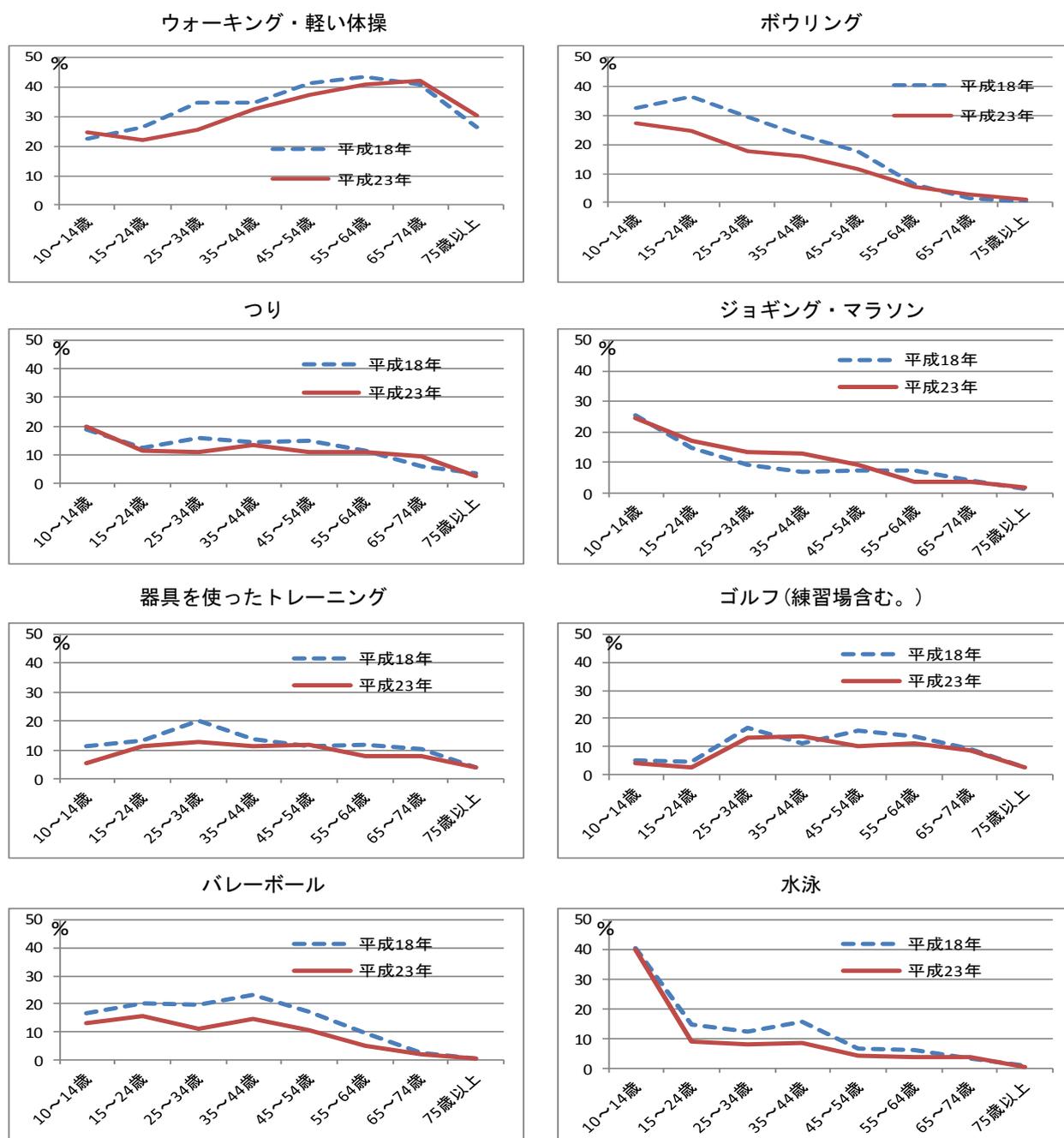
注) 平成23年行動者率 3%以上を表章。

(5) 「ジョギング・マラソン」は15～54歳及び75歳以上で5年前を上回る。

「スポーツ」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、ほとんどの種類で、多くの年齢階級は低下している。特に10～64歳の階級では低下している種類が多く、55～64歳の階級では主な種類すべてで5年前を下回っている。

一方、「ジョギング・マラソン」は、15～54歳及び75歳以上で5年前を上回っている。(図3-5)

図3-5 「スポーツ」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成18年、23年)



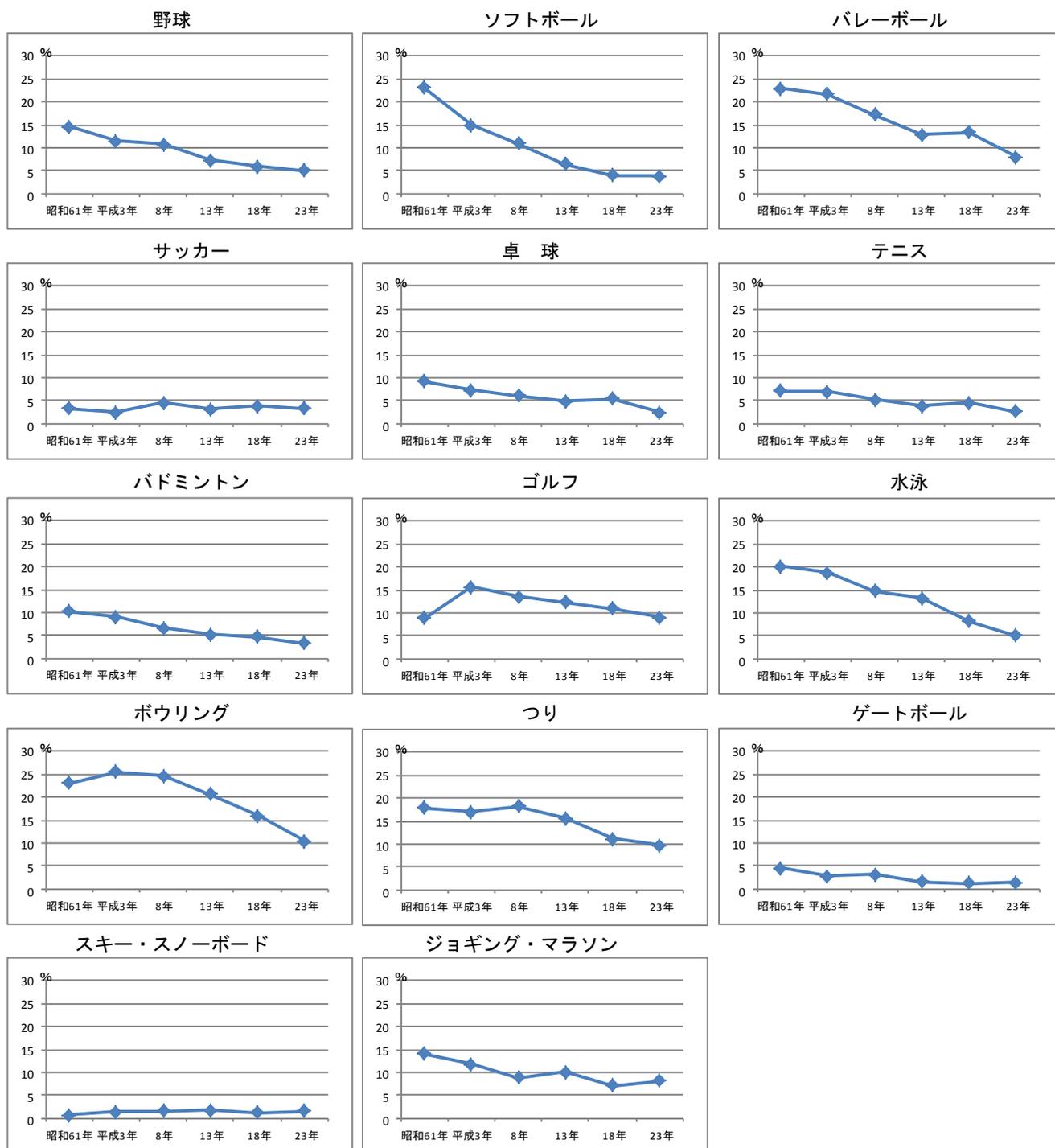
(6) 過去25年間の推移をみると、全体的に低下傾向。

過去25年間で比較可能な「スポーツ」の行動者率（15歳以上）の推移を種類別に見ると、全体的に低下傾向にある。（図3-6）

注）「スポーツ」の種類は、調査年次により種目数が異なるため比較可能な種類を表章。

「スキー・スノーボード」の平成3年以前の調査項目名は「スキー」。

図3-6 「スポーツ」の種類別行動者率の推移（15歳以上）



4 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は78万人、行動者率は78.7%。

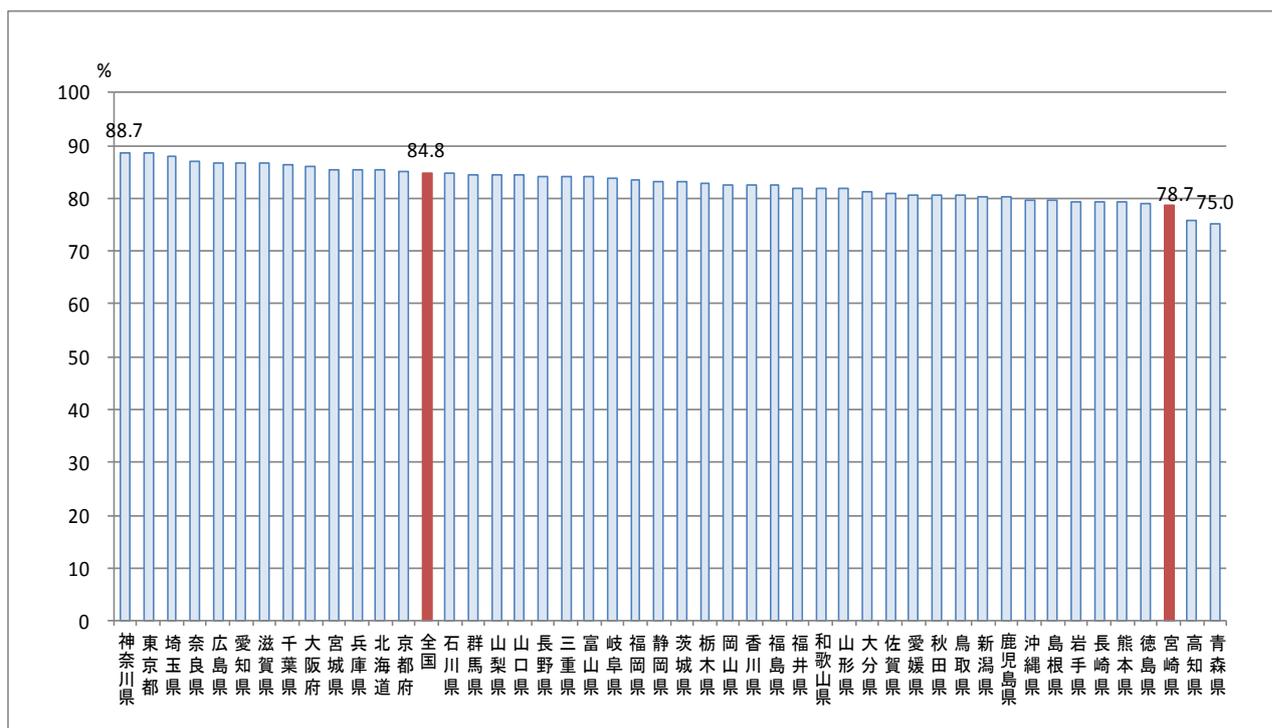
過去1年間の本県の10歳以上の「趣味・娯楽」の行動者数は78万人で、10歳以上の行動者率は78.7%となっている。これは全国平均の84.8%に比べ6.1ポイント低く、全国順位で見ると第45位となっている。

男女別にみると、行動者数は男性が36万6千人、女性が41万4千人となっており、行動者率は男性が78.7%、女性が78.7%で、同率となっている。

本県の行動者率は平成18年と比べると、3.2ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が2.1ポイント低下、女性が4.2ポイント低下となっている。

(図4-1)

図4-1 「趣味・娯楽」の行動者率(10歳以上)

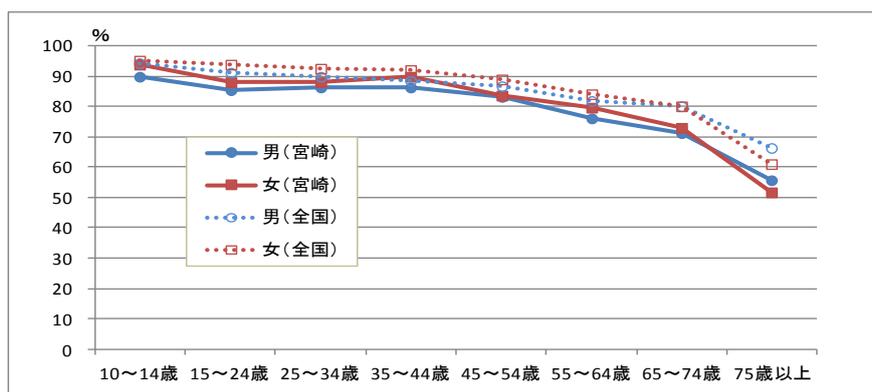


(2) 男女ともにすべての年齢階級で全国平均を下回る。

本県の男女別、年齢別に行動者率をみると、75歳以上を除くすべての年齢階級で女性が男性を上回っている。

また、本県と全国を比べてみると、男女ともにすべての年齢階級で全国平均を下回っており、特に65～75歳以上で全国平均を大きく下回っている。(図4-2)

図4-2 本県と全国の男女別、年齢階級別「趣味・娯楽」行動者率



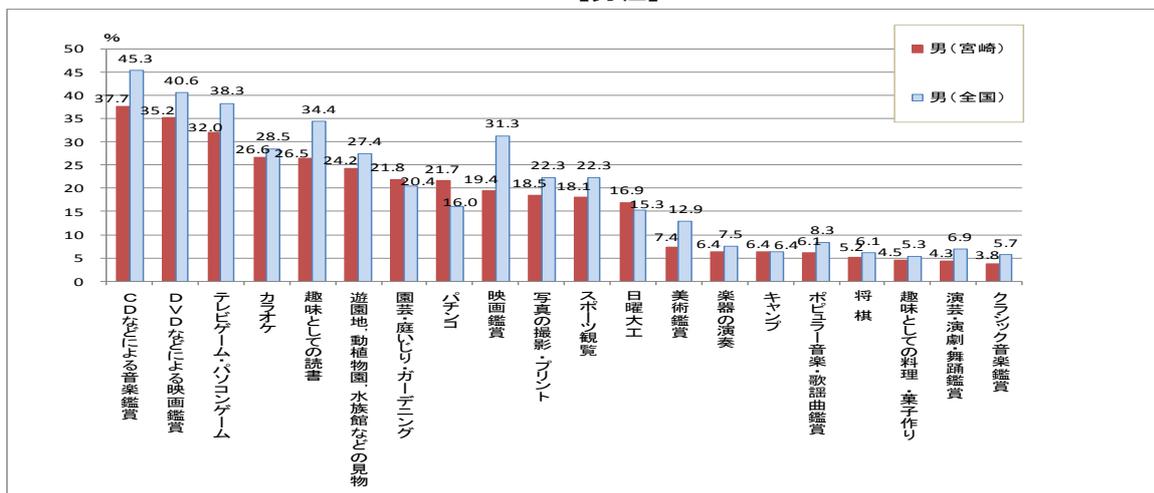
(3) 「パチンコ」は総数で全国1位、男性は全国2位、女性も全国2位。

種類別に本県の行動者率をみると、男性は「CDなどによる音楽鑑賞」が最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」、「テレビゲーム・パソコンゲーム」が高い。女性は「CDなどによる音楽鑑賞」が最も高く、次いで「趣味としての読書」、「DVDなどによる映画鑑賞」の順となっている。

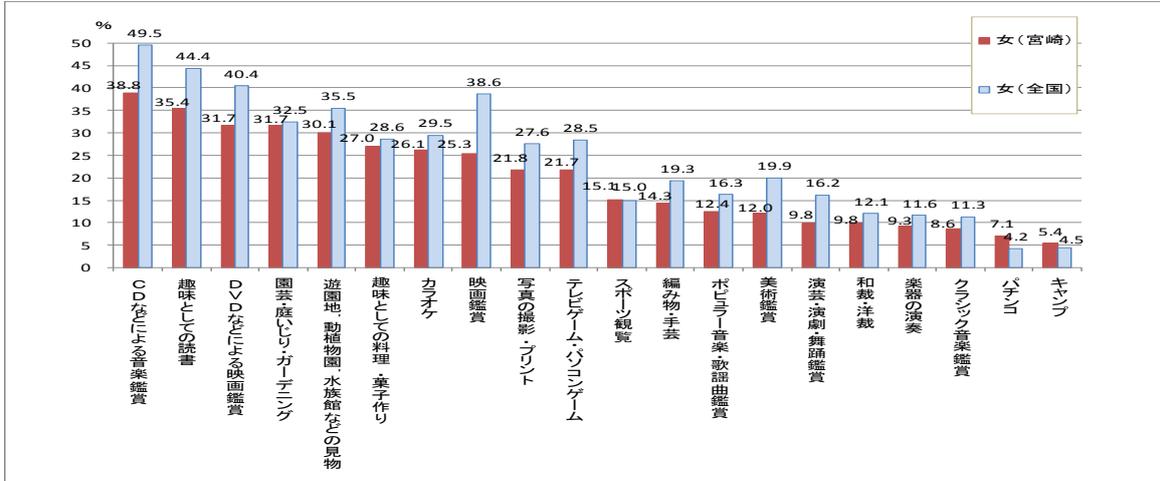
全国と比較すると、男女とも多くの種類で全国平均を下回っている。男女ともに「映画鑑賞」が最も下回っており、「趣味としての読書」、「CDなどによる音楽鑑賞」も大きく下回っている。一方、「パチンコ」は総数(13.9%)で全国1位、男性は全国2位、女性も全国2位となっている。(図4-3)

図4-3 本県と全国の男女別、種類別「趣味・娯楽」行動者率

【男性】



【女性】



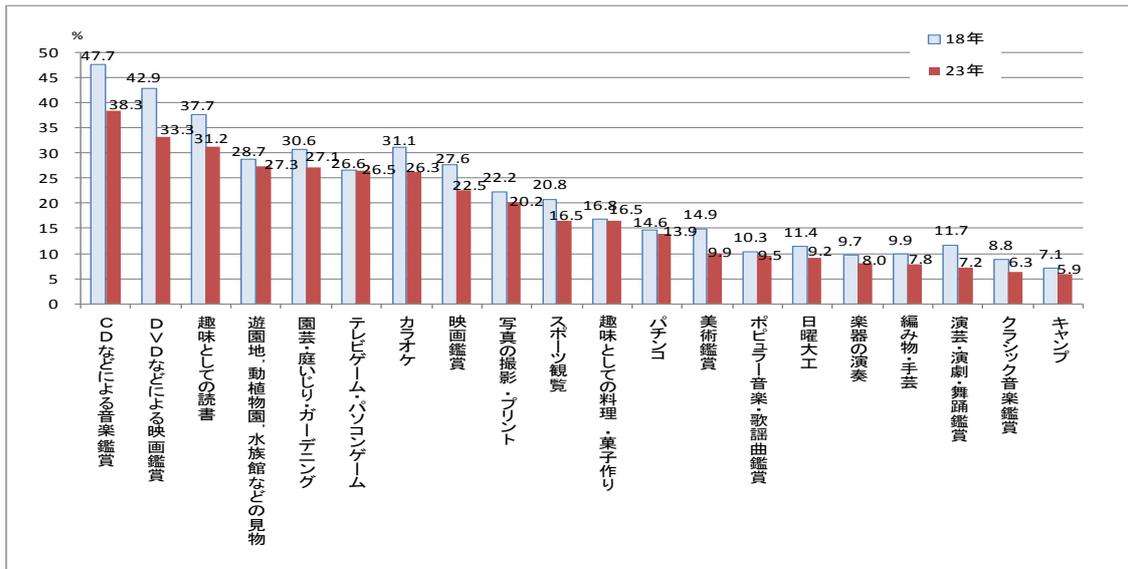
注) 行動者率が上位 20 の種類を表章。

(4) ほとんどの種類で行動者率が5年前を下回る。

本県の行動者率を種類別に5年前と比較すると、ほとんどの種類で行動者率が下落している。低下が一番大きいものは「DVDなどによる映画鑑賞」で9.6ポイントの低下、次いで「CDなどによる音楽鑑賞」が9.4ポイントの低下となっている。

一方上昇したものは2種類のみで、「茶道」が0.3ポイントの上昇、「華道」が0.1ポイントの上昇となっている。(図4-4)

図4-4 本県の「趣味・娯楽」の種類別行動者率(平成18年、23年)



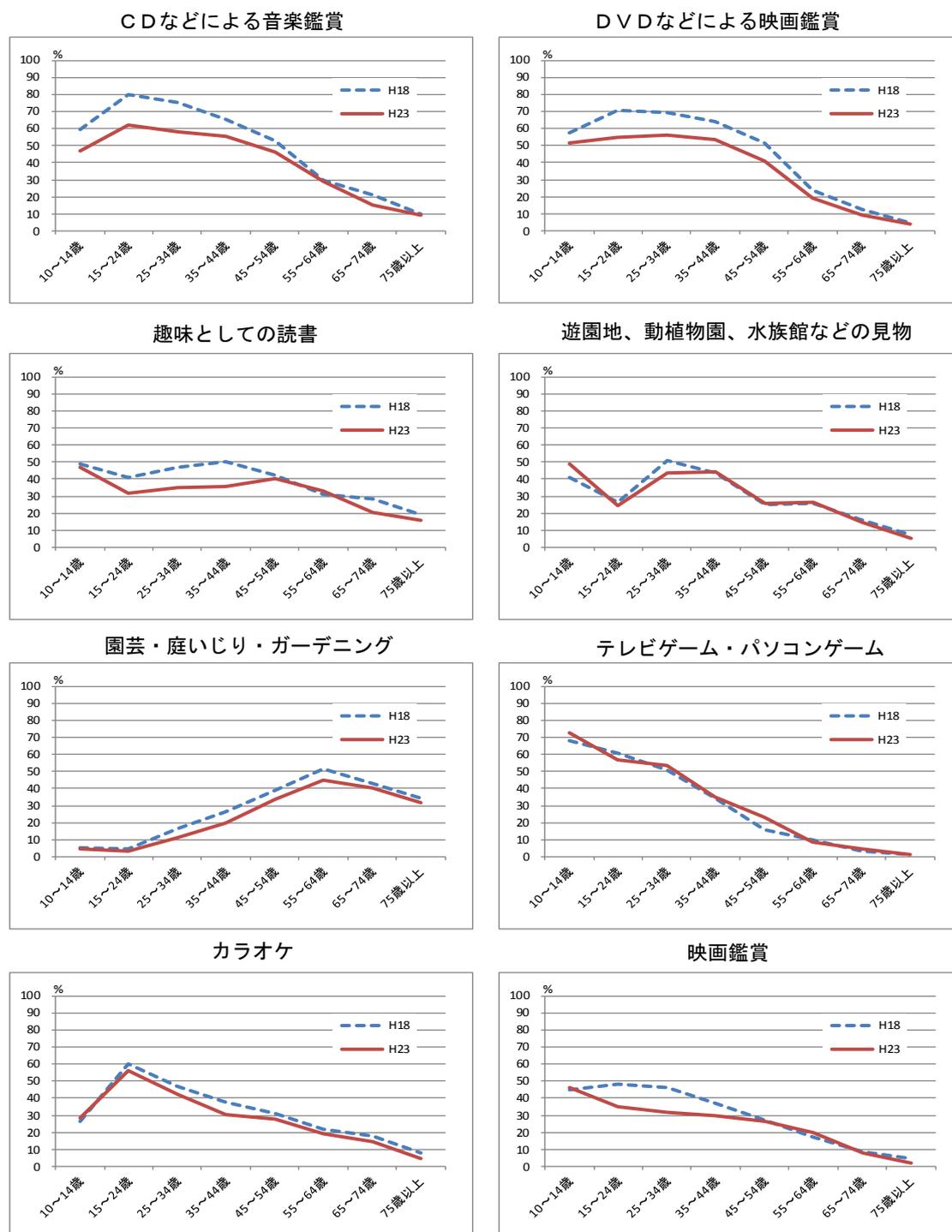
注) 行動者率が上位 20 の種類を表章。

(5) 「テレビゲーム・パソコンゲーム」は多くの年齢階級で5年前を上回る。

「趣味・娯楽」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「テレビゲーム・パソコンゲーム」は多くの年齢階級で5年前を上回っている。

一方、その他の種類についてはほとんどの年齢階級で5年前を下回っている。「CDなどによる音楽鑑賞」、「DVDなどによる映画鑑賞」、「映画鑑賞」は15～34歳で大きく下回り、「趣味としての読書」は25～44歳で大きく下回っている。(図4-5)

図4-5 「趣味・娯楽」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成18年、23年)



(6) 過去25年間の推移をみると、「テレビゲーム・パソコンゲーム」は大きく上昇。

過去25年間で比較可能な「趣味・娯楽」の行動者率（15歳以上）の推移を種類別に見ると、「テレビゲーム・パソコンゲーム」は大きく上昇している。

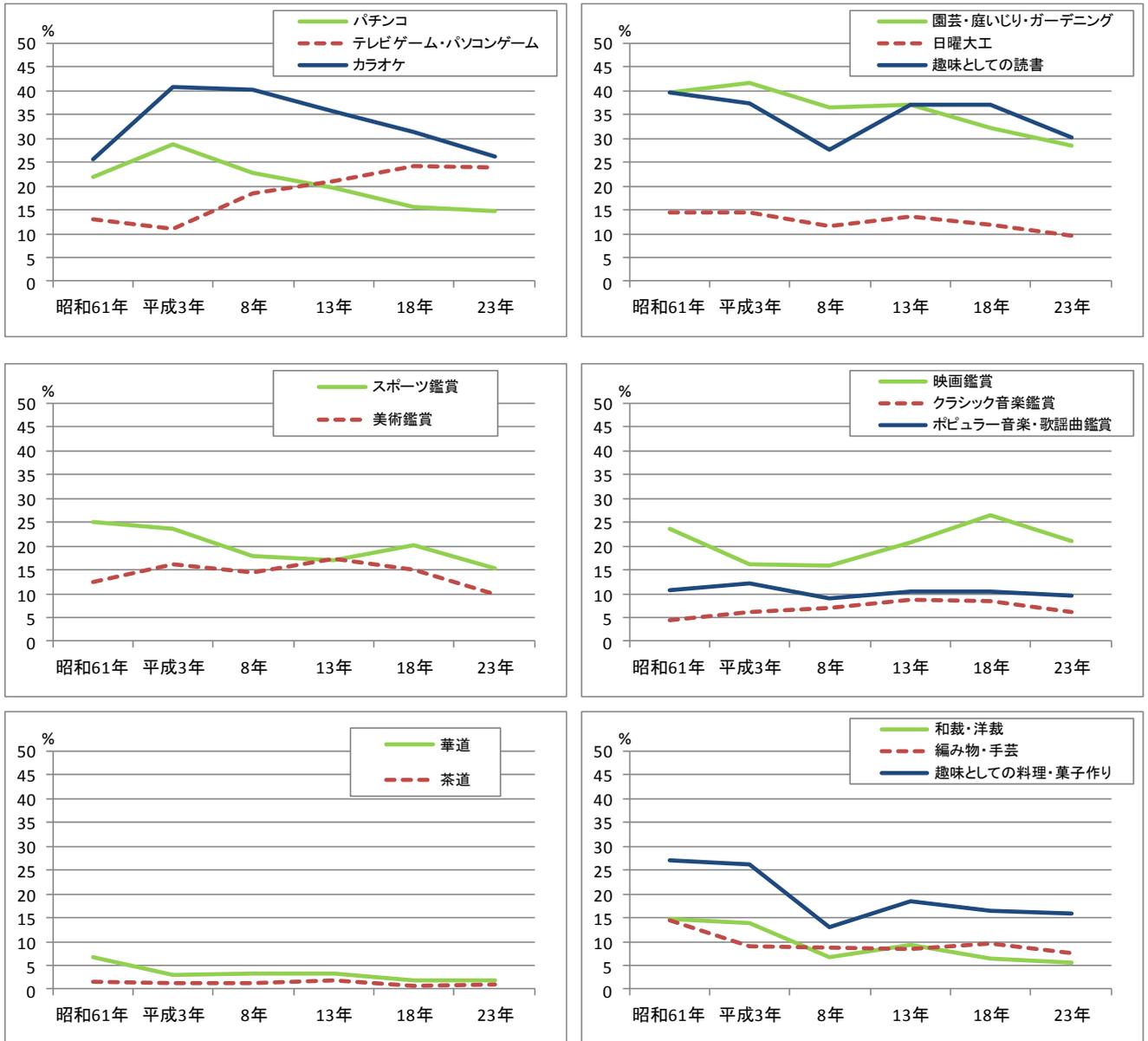
一方、「カラオケ」、「パチンコ」は平成3年をピークに低下傾向にある。（図4-6）

注）「趣味・娯楽」の種類は、調査年次により種目数が異なるため比較可能な種類を表章。

「趣味としての料理・菓子作り」の平成3年以前の調査項目名は「料理・菓子作り」。

「テレビゲーム・パソコンゲーム」の平成13年以前の調査項目名は「テレビゲーム」。

図4-6 「趣味・娯楽」の種類別行動者率の推移（15歳以上）



5 旅行・行楽

(1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は64万3千人、行動者率は64.9%。

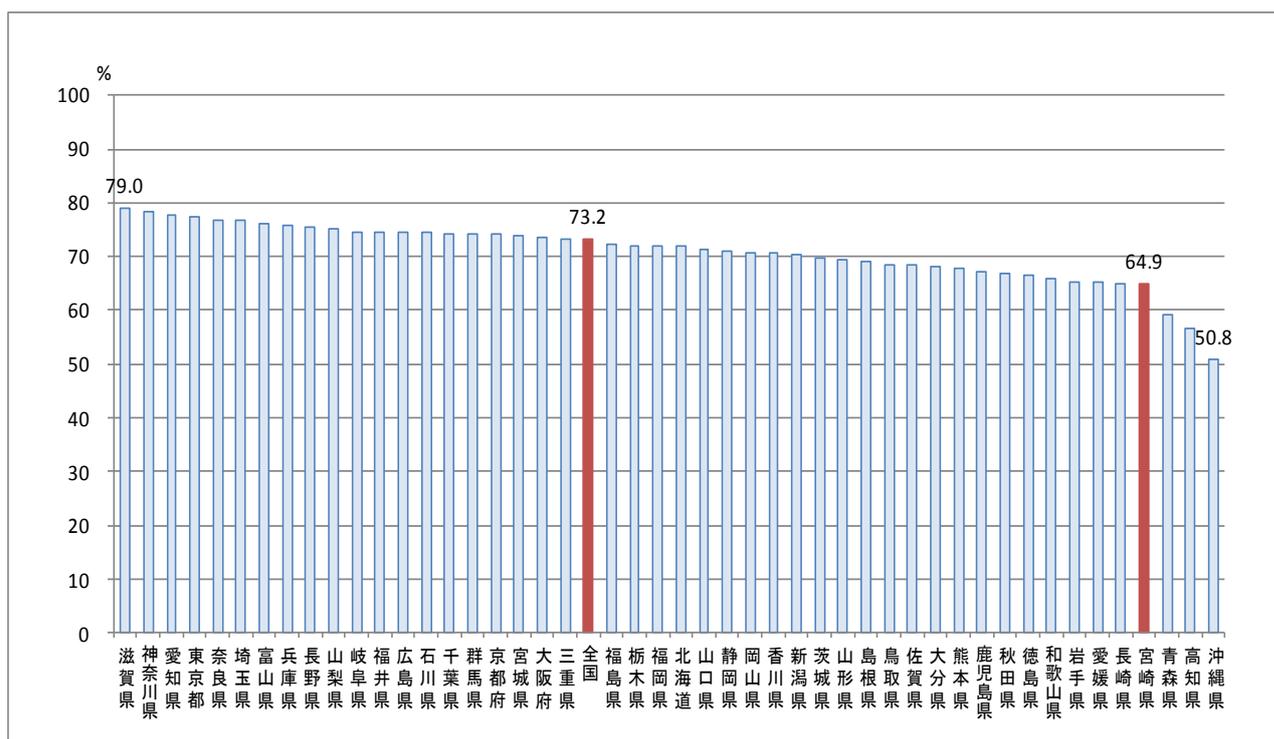
過去1年間に本県の10歳以上で「旅行・行楽」の行動者数64万3千人で、10歳以上行動者率は64.9%となっている。これは全国平均の73.2%に比べ8.3ポイント低く、全国順位でみると第44位となっている。

男女別にみると、行動者数は男性が29万2千人、女性が35万1千人となっており、行動者率は男性が62.8%、女性が66.6%で、女性が男性より3.8ポイント高くなっている。

本県の行動者率は平成18年と比べると、6.4ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が6.1ポイント低下、女性がポイント6.9ポイント低下となっている。

(図5-1)

図5-1 「旅行・行楽」の行動者率(10歳以上)

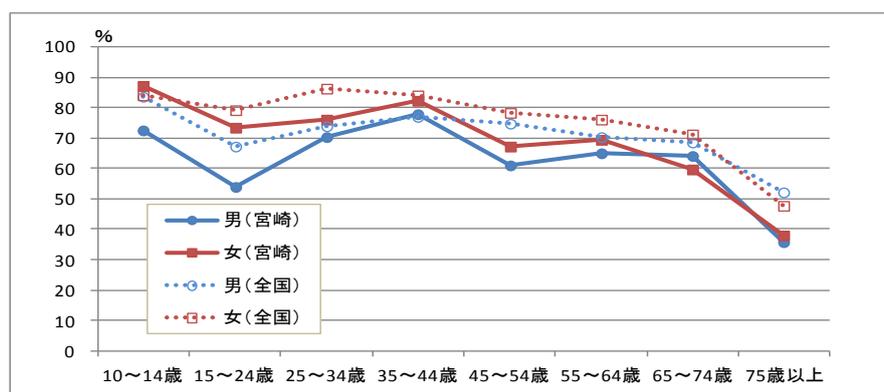


(2) 65～74 歳以外の年齢階級で女性が男性を上回り、特に 10～24 歳での差が大きい。

本県の男女別、年齢別に行動者率をみると、65～74 歳以外の年齢階級で女性が男性を上回っている。特に 10～24 歳での差が大きい。

また、本県と全国を比べてみると、男性は 35～44 歳以外、女性は 10～14 歳以外で全国平均を下回っており、特に男性は 75 歳以上、女性は 65～74 歳以上の階級で全国平均を大きく下回っている。(図 5-2)

図 5-2 本県と全国の男女別、年齢階級別「旅行・行楽」行動者率



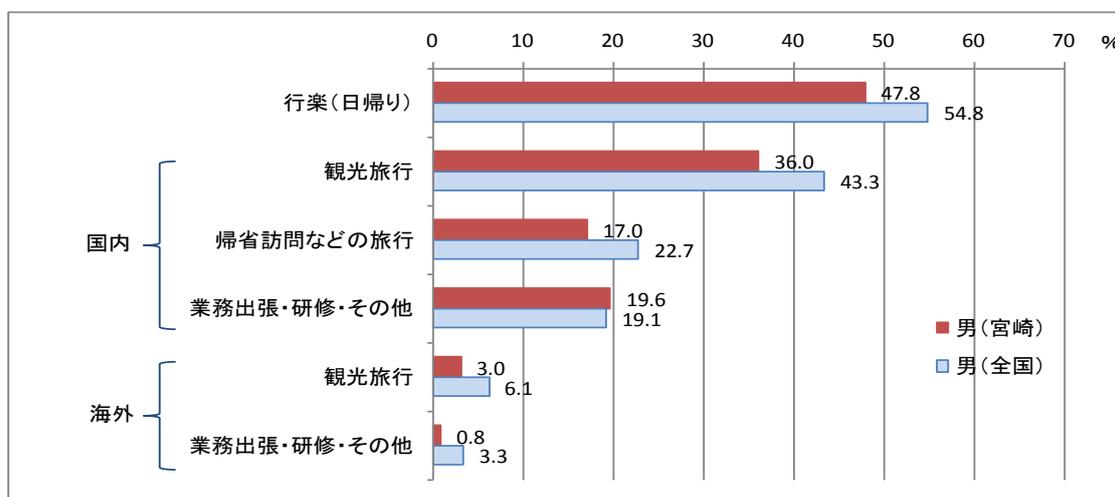
(3) 男女ともに国内の「業務出張・研修・その他」のみ全国平均を上回る。

種類別に本県の行動者率をみると、国内および海外の「業務出張・研修・その他」を除き、全ての種類で女性の方が高くなっている。

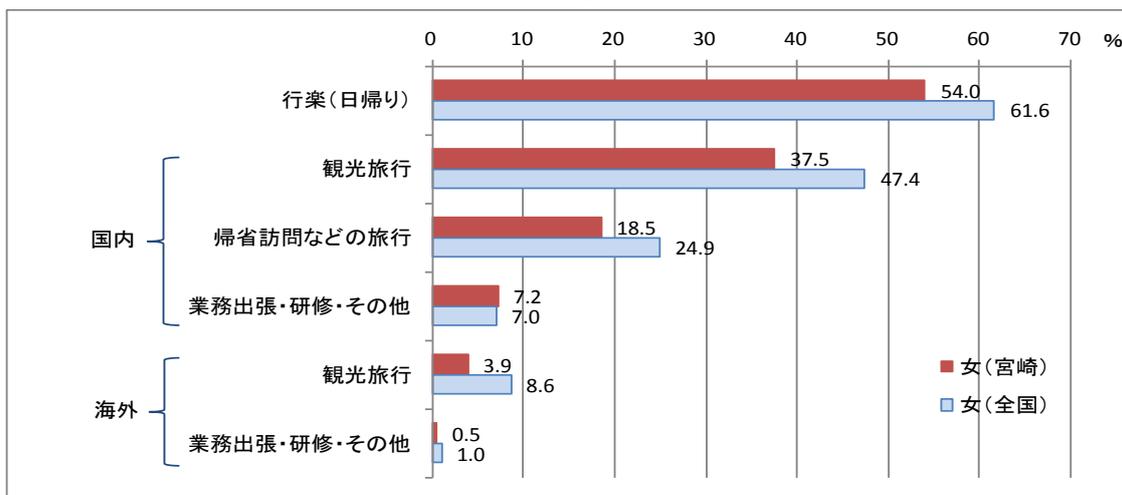
全国と比較すると、男女ともに国内の「業務出張・研修・その他」のみ全国平均を上回っている。(図 5-3)

図 5-3 本県と全国の男女別、種類別「旅行・行楽」行動者率

【男性】



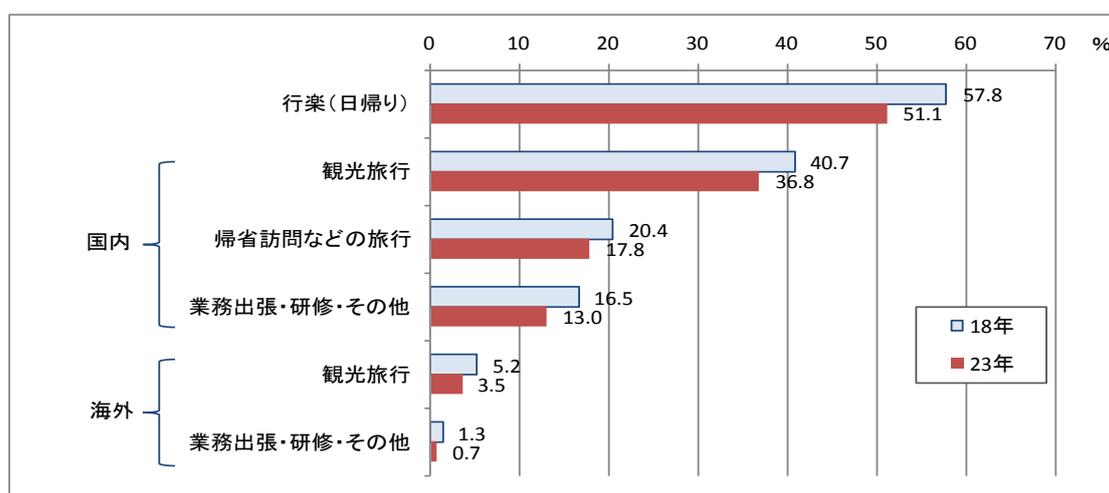
【女性】



(4) 全ての種類で行動者率が5年前を下回る。

本県の行動者率を種類別に5年前と比較すると、全ての種類で行動者率が下落している。低下が一番大きいものは「行楽（日帰り）」で6.7ポイントの低下、次いで国内の「観光旅行」が3.9ポイントの低下、国内の「業務出張・研修・その他」が3.5ポイントの低下となっている。（図5-4）

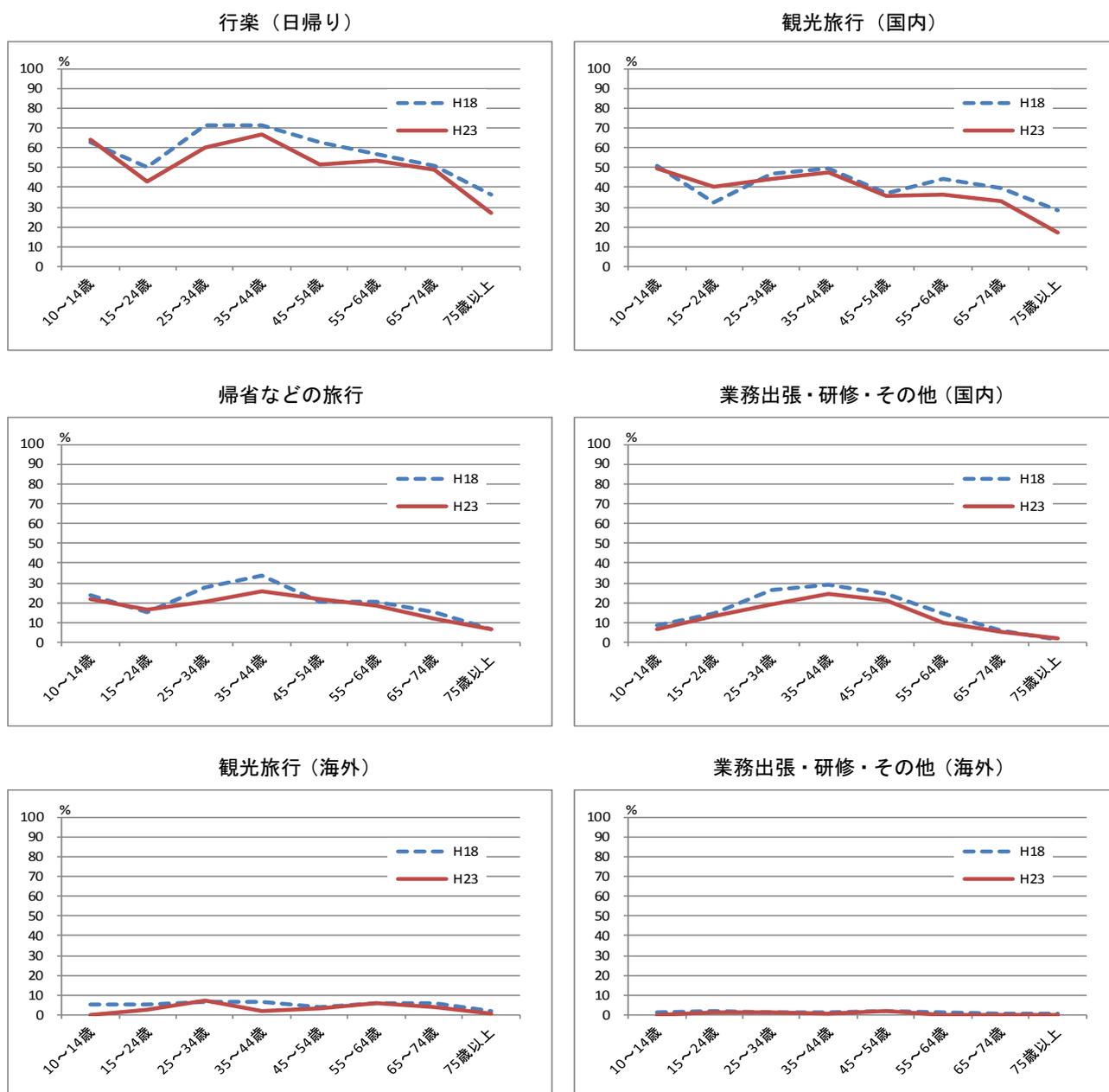
図5-4 本県の「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成18年、23年）



(5) 「観光旅行（国内）」は特に55歳以上の年齢階級で5年前を下回る。

「旅行・行楽」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、全ての種類について、多くの年齢階級で5年前を下回っている。「観光旅行（国内）」については、55歳以上の年齢階級で特に低下している。（図5-5）

図5-5 「旅行・行楽」の主な種類、年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

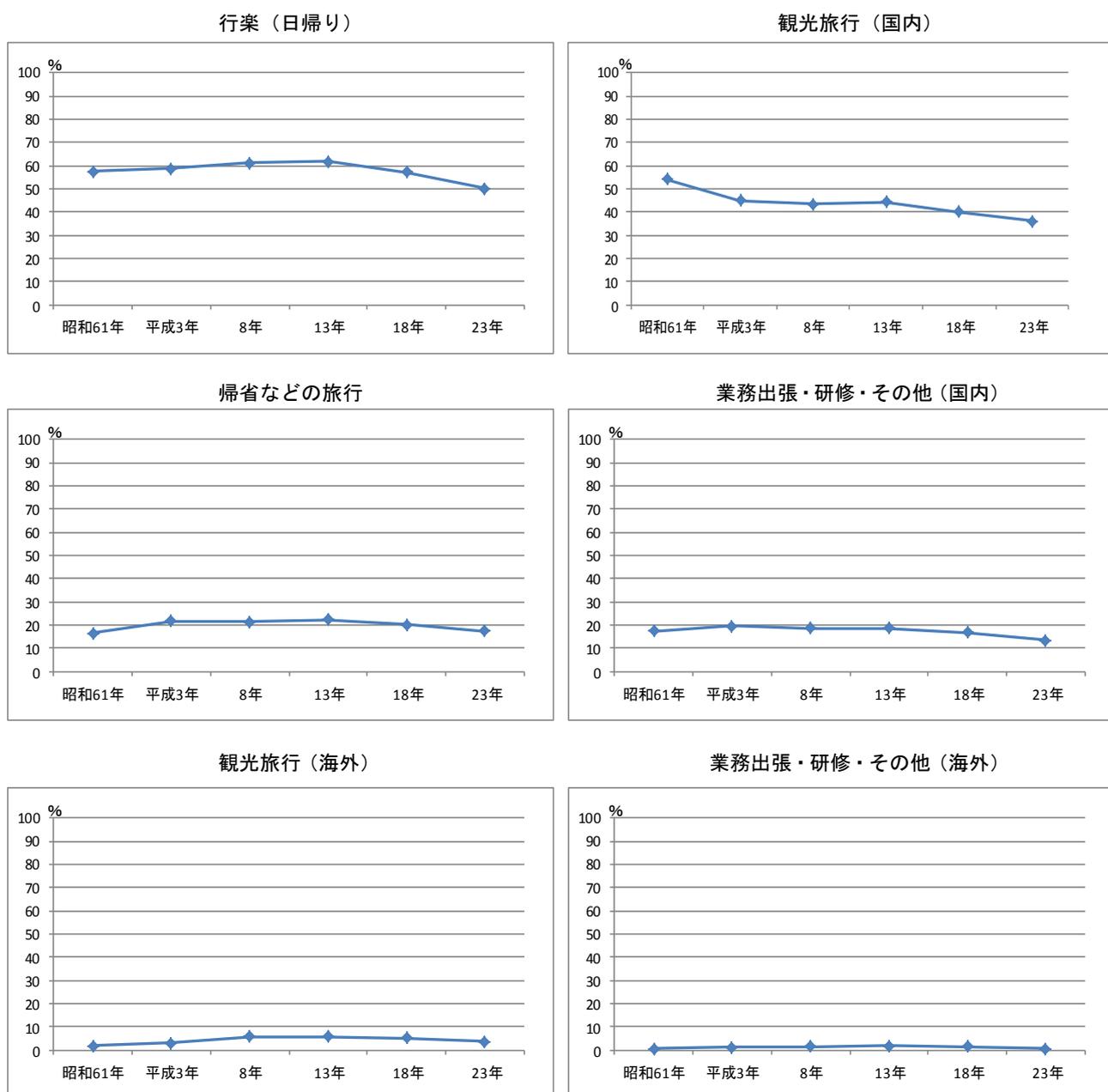


(6) 過去25年間の推移をみると、平成18年以降すべての種類が低下傾向。

過去25年間で比較可能な「旅行・行楽」の行動者率（15歳以上）の推移を種類別に見ると、平成18年以降すべての種類が低下傾向にある。

国内の観光旅行はピークの昭和61年と比べると大きく低下し、18.1ポイントの低下となっている。（図5-6）

図5-6 「旅行・行楽」の種類別行動者率の推移（15歳以上）



生活行動別行動者率全国ランキング（総数）

学習・自己啓発・訓練			ボランティア活動			スポーツ			趣味・娯楽			旅行・行楽		
	全国	35.2		全国	26.3		全国	63.0		全国	84.8		全国	73.2
1	東京都	44.7	1	山形県	35.3	1	東京都	68.6	1	神奈川県	88.7	1	滋賀県	79.0
2	神奈川県	42.1	2	島根県	34.8	2	滋賀県	67.9	2	東京都	88.5	2	神奈川県	78.3
3	滋賀県	39.2	3	鹿児島県	34.4	3	埼玉県	66.9	3	埼玉県	87.9	3	愛知県	77.6
4	奈良県	38.4	4	鳥取県	33.9	4	神奈川県	66.1	4	奈良県	87.1	4	東京都	77.3
5	京都府	37.9	5	岩手県	33.7	5	千葉県	66.0	5	広島県	86.7	5	奈良県	76.8
6	千葉県	37.7	6	長野県	33.1	6	山梨県	65.2	6	愛知県	86.6	6	埼玉県	76.7
7	兵庫県	37.1	7	岐阜県	32.8	7	愛知県	65.1		滋賀県	86.6	7	富山県	76.1
8	埼玉県	36.8	8	滋賀県	32.6	8	奈良県	64.5	8	千葉県	86.2	8	兵庫県	75.9
9	大阪府	36.5	9	佐賀県	31.8	9	群馬県	63.7	9	大阪府	85.9	9	長野県	75.3
10	宮城県	35.8	10	福井県	31.3		長野県	63.7	10	宮城県	85.5	10	山梨県	75.0
	長野県	35.8		岡山県	31.3	11	栃木県	63.4		兵庫県	85.5	11	岐阜県	74.6
12	広島県	35.2	12	山梨県	31.2	12	静岡県	63.3	12	北海道	85.3	12	福井県	74.5
13	福岡県	34.2	13	山口県	31.0		京都府	63.3	13	京都府	84.9		広島県	74.5
14	愛知県	33.4	14	宮城県	30.7	14	大阪府	62.9	14	石川県	84.6	14	石川県	74.4
15	山梨県	33.2		熊本県	30.7	15	広島県	62.7	15	群馬県	84.5	15	千葉県	74.2
16	茨城県	32.9	16	富山県	29.6	16	兵庫県	62.6		山梨県	84.5	16	群馬県	74.1
	岡山県	32.9	17	群馬県	29.2	17	茨城県	62.3		山口県	84.5		京都府	74.1
18	島根県	32.6		石川県	29.2		山口県	62.3	18	長野県	84.2	18	宮城県	73.9
19	福井県	32.5	19	秋田県	28.9		沖縄県	62.3		三重県	84.2	19	大阪府	73.5
20	静岡県	32.0		広島県	28.9	20	石川県	62.1	20	富山県	84.1	20	三重県	73.3
	香川県	32.0		大分県	28.9		三重県	62.1	21	岐阜県	83.8	21	福岡県	72.3
22	岐阜県	31.9	22	静岡県	28.5	22	富山県	62.0	22	福岡県	83.5	22	栃木県	72.1
23	三重県	31.8	23	香川県	27.8	23	宮崎県	61.9	23	静岡県	83.2		福岡県	72.1
24	石川県	31.7		宮崎県	27.8	24	岐阜県	61.7	24	茨城県	83.0	24	北海道	72.0
25	北海道	31.5	25	奈良県	27.7	25	鹿児島県	61.4	25	栃木県	82.8	25	山口県	71.2
	富山県	31.5	26	愛媛県	27.4	26	島根県	60.9	26	岡山県	82.5	26	静岡県	71.0
	鳥取県	31.5	27	福岡県	27.3	27	大分県	60.6		香川県	82.5	27	岡山県	70.7
28	愛媛県	31.4	28	福島県	27.2	28	岡山県	60.3	28	福島県	82.4		香川県	70.7
	沖縄県	31.4	29	長崎県	26.9		熊本県	60.3	29	福井県	82.0	29	新潟県	70.4
30	群馬県	31.3	30	三重県	26.7	30	宮城県	60.2		和歌山県	82.0	30	茨城県	69.6
	山口県	31.3	31	栃木県	26.2		愛媛県	60.2	31	山形県	81.7	31	山形県	69.5
32	佐賀県	31.1	32	千葉県	26.0	32	長崎県	60.1	32	大分県	81.1	32	島根県	69.2
33	大分県	30.6	33	茨城県	25.8	33	北海道	60.0	33	佐賀県	80.8	33	鳥取県	68.4
34	岩手県	30.3	34	兵庫県	25.7	34	福岡県	59.6	34	愛媛県	80.7		佐賀県	68.4
35	熊本県	30.2	35	東京都	24.6	35	香川県	59.5	35	秋田県	80.6	35	大分県	68.1
36	和歌山県	29.7	36	神奈川県	24.4	36	鳥取県	58.5		鳥取県	80.6	36	熊本県	67.7
37	宮崎県	29.6	37	徳島県	24.3	37	佐賀県	57.8	37	新潟県	80.4	37	鹿児島県	67.0
	鹿児島県	29.6	38	和歌山県	24.2	38	徳島県	57.5	38	鹿児島県	80.3	38	秋田県	66.8
39	栃木県	29.4	39	埼玉県	24.0	39	福井県	57.4	39	沖縄県	79.7	39	徳島県	66.5
40	長崎県	29.2	40	北海道	23.8	40	新潟県	57.2	40	島根県	79.5	40	和歌山県	66.0
41	徳島県	28.5	41	高知県	23.7	41	山形県	57.0	41	岩手県	79.4	41	岩手県	65.2
42	福島県	28.1	42	新潟県	23.5		福島県	57.0		長崎県	79.4		愛媛県	65.2
43	山形県	28.0	43	京都府	23.2	43	和歌山県	56.9	43	熊本県	79.3	43	長崎県	65.0
44	高知県	27.8	44	愛知県	23.1	44	岩手県	55.0	44	徳島県	79.1	44	宮崎県	64.9
45	新潟県	27.0	45	青森県	22.7	45	高知県	54.7	45	宮崎県	78.7	45	青森県	59.1
46	青森県	26.0	46	沖縄県	22.4	46	秋田県	53.9	46	高知県	75.7	46	高知県	56.7
47	秋田県	25.4	47	大阪府	20.6	47	青森県	49.4	47	青森県	75.0	47	沖縄県	50.8

【生活時間関係】

1 1日の生活時間の配分

概 観

(1) 1次活動時間及び3次活動時間は増加、2次活動時間は減少。

宮崎県に住んでいる10歳以上の人について、1日の生活時間(週全体平均。以下「週全体」という。)をみると、1次活動時間が10時間45分、2次活動時間が6時間56分、3次活動時間が6時間19分となっている。

平成18年と比べると、1次活動時間は3分の増加、2次活動時間は4分の減少、3次活動時間は1分の増加となっている。(表1-1)

(2) 1次活動時間は男女ともに増加。3次活動時間は男性が増加、女性が減少。

生活時間を男女別にみると、男性は1次活動時間が10時間42分、2次活動時間が6時間40分、3次活動時間が6時間38分、女性は1次活動時間が10時間48分、2次活動時間が7時間11分、3次活動時間が6時間2分となっており、1次活動時間及び2次活動時間は女性が長く、3次活動時間は男性が長くなっている。

平成18年と比べると、男性は1次活動時間が3分の増加、2次活動時間が7分の減少、3次活動時間が4分の増加、女性は1次活動時間が3分の増加、2次活動時間が増減なし、3次活動時間が2分の減少となっている。

男女ともに仕事の時間の減少が大きくなっている。また男性は、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌が、女性は育児の時間の増加が大きくなっている。(表1-1)

(3) 平日及び土曜日で1次活動時間及び3次活動時間が増加、2次活動時間が減少

生活時間を曜日別にみると、1次活動時間及び3次活動時間は日曜日が最も長く、2次活動時間は平日が最も長くなっている。

平成18年と比べると、平日及び土曜日は1次及び3次活動時間が増加、2次活動時間が減少となっている。日曜日は1次及び2次活動時間が増加、3次活動時間が減少となっている。(表1-2)

(4) 25年前と比較すると1、3次活動時間は増加、2次活動時間は減少。

比較可能な年齢区分である15歳以上の人について、25年前と比較すると、1次活動時間は17分増加、2次活動時間は53分減少、3次活動時間は36分増加している。

(図1-1、表1-3)

表 1-1 男女, 行動の種類別生活時間 (平成 18 年, 23 年) - 週全体

(時間.分)

	総数			男			女		
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減
1次活動	10.42	10.45	0.03	10.39	10.42	0.03	10.45	10.48	0.03
睡眠	7.46	7.47	0.01	7.57	7.57	0.00	7.37	7.39	0.02
身の回りの用事	1.16	1.19	0.03	1.05	1.08	0.03	1.25	1.28	0.03
食事	1.40	1.39	-0.01	1.37	1.37	0.00	1.43	1.40	-0.03
2次活動	7.00	6.56	-0.04	6.47	6.40	-0.07	7.11	7.11	0.00
通勤・通学	0.22	0.20	-0.02	0.27	0.25	-0.02	0.17	0.15	-0.02
仕事	3.53	3.36	-0.17	4.53	4.42	-0.11	3.01	2.38	-0.23
学業	0.42	0.45	0.03	0.46	0.51	0.05	0.39	0.40	0.01
家事	1.29	1.32	0.03	0.24	0.20	-0.04	2.26	2.35	0.09
介護・看護	0.04	0.03	-0.01	0.02	0.01	-0.01	0.05	0.05	0.00
育児	0.09	0.16	0.07	0.03	0.05	0.02	0.14	0.26	0.12
買い物	0.21	0.23	0.02	0.11	0.14	0.03	0.30	0.31	0.01
3次活動	6.18	6.19	0.01	6.34	6.38	0.04	6.04	6.02	-0.02
移動(通勤・通学を除く)	0.31	0.29	-0.02	0.29	0.27	-0.02	0.33	0.30	-0.03
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.23	2.31	0.08	2.29	2.41	0.12	2.18	2.23	0.05
休養・くつろぎ	1.26	1.30	0.04	1.25	1.33	0.08	1.27	1.29	0.02
学習・自己啓発・訓練(学業以外) 1)	0.10	0.09	-0.01	0.12	0.09	-0.03	0.09	0.09	0.00
趣味・娯楽	0.37	0.35	-0.02	0.43	0.46	0.03	0.32	0.26	-0.06
スポーツ	0.19	0.17	-0.02	0.24	0.21	-0.03	0.14	0.14	0.00
ボランティア活動・社会参加活動	0.04	0.04	0.00	0.05	0.04	-0.01	0.04	0.04	0.00
交際・付き合い	0.23	0.19	-0.04	0.26	0.19	-0.07	0.20	0.19	-0.01
受診・療養	0.09	0.08	-0.01	0.07	0.07	0.00	0.10	0.09	-0.01
その他	0.16	0.16	0.00	0.16	0.13	-0.03	0.16	0.18	0.02
(再掲)									
家事関連 2)	2.03	2.14	0.11	0.40	0.40	0.00	3.15	3.37	0.22
休養等自由時間活動 3)	3.49	4.01	0.12	3.54	4.14	0.20	3.45	3.52	0.07
積極的自由時間活動 4)	1.10	1.05	-0.05	1.24	1.20	-0.04	0.59	0.53	-0.06

表 1-2 男女, 行動の種類, 曜日別生活時間 (平成 18 年, 23 年)

(時間.分)

	平成18年			平成23年			増減(平成23年-平成18年)			
	平日	土曜日	日曜日	平日	土曜日	日曜日	平日	土曜日	日曜日	
総数	1次活動	10.33	10.52	11.17	10.34	11.00	11.22	0.01	0.08	0.05
	2次活動	7.43	5.53	4.29	7.41	5.36	4.33	-0.02	-0.17	0.04
	3次活動	5.43	7.16	8.14	5.45	7.24	8.05	0.02	0.08	-0.09
男	1次活動	10.29	10.49	11.19	10.31	10.58	11.20	0.02	0.09	0.01
	2次活動	7.37	5.38	3.45	7.34	5.04	3.42	-0.03	-0.34	-0.03
	3次活動	5.54	7.33	8.57	5.55	7.58	8.57	0.01	0.25	0.00
女	1次活動	10.37	10.54	11.16	10.38	11.02	11.23	0.01	0.08	0.07
	2次活動	7.49	6.06	5.07	7.46	6.05	5.18	-0.03	-0.01	0.11
	3次活動	5.34	7.00	7.36	5.36	6.54	7.19	0.02	-0.06	-0.17

図 1-1 行動の種類別生活時間の推移 (昭和 61 年~平成 23 年) - 週全体, 15 歳以上

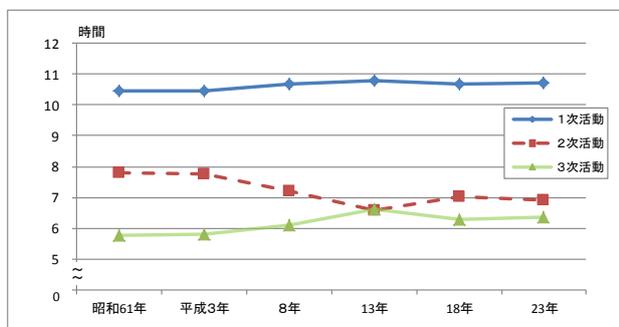


表 1-3 行動の種類別生活時間の推移 (昭和 61 年~平成 23 年) - 週全体, 15 歳以上

(時間.分)

	1次活動	2次活動	3次活動
昭和 61 年	10.27	7.48	5.45
平成 3 年	10.27	7.45	5.48
平成 8 年	10.40	7.13	6.06
平成 13 年	10.48	6.35	6.37
平成 18 年	10.41	7.02	6.16
平成 23 年	10.44	6.55	6.21

- 1) 平成 18 年の調査項目名は「学習・研究 (学業以外)」
- 2) 家事, 介護・看護, 育児及び買い物
- 3) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ
- 4) 学習・自己啓発・訓練 (学業以外), 趣味・娯楽, スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動

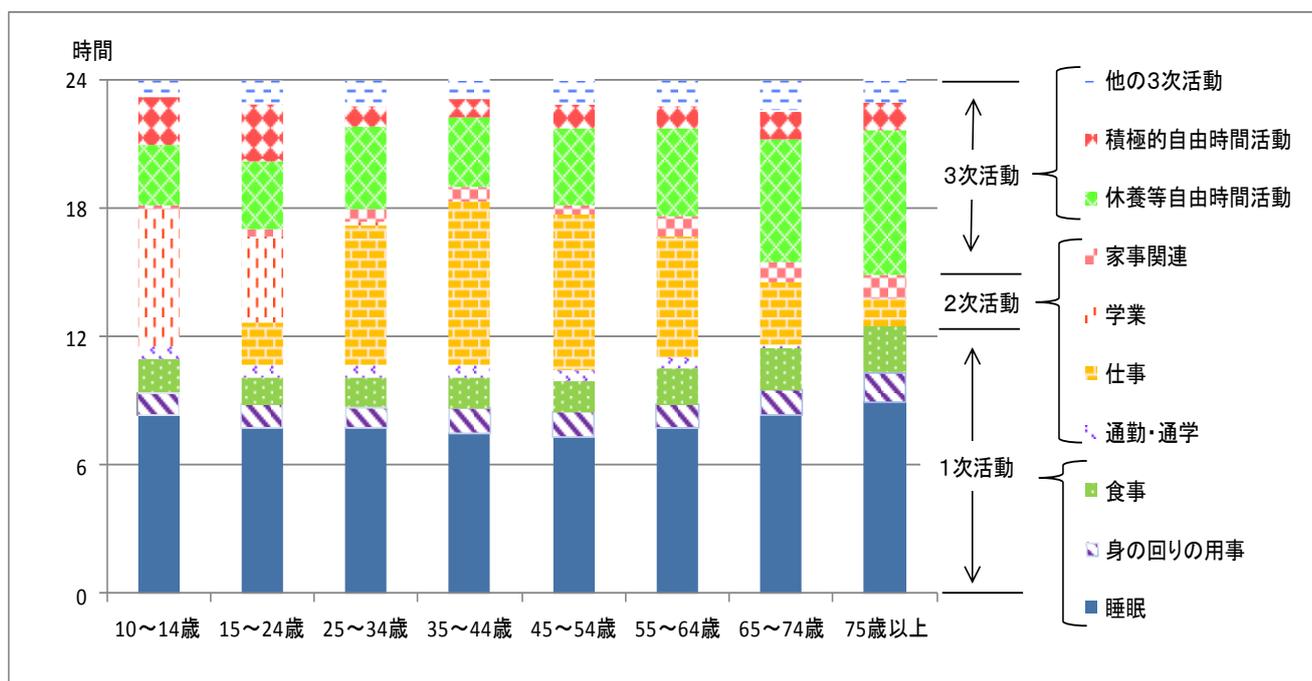
(5) 10～24歳は学業、25～64歳は仕事・家事関連、65歳以上は休養等自由時間活動の時間が長い。

生活時間を年齢階級別、男女ともに10～24歳は学業、25～64歳は仕事・家事関連、65歳以上は休養等自由時間活動の時間が長くなっている。

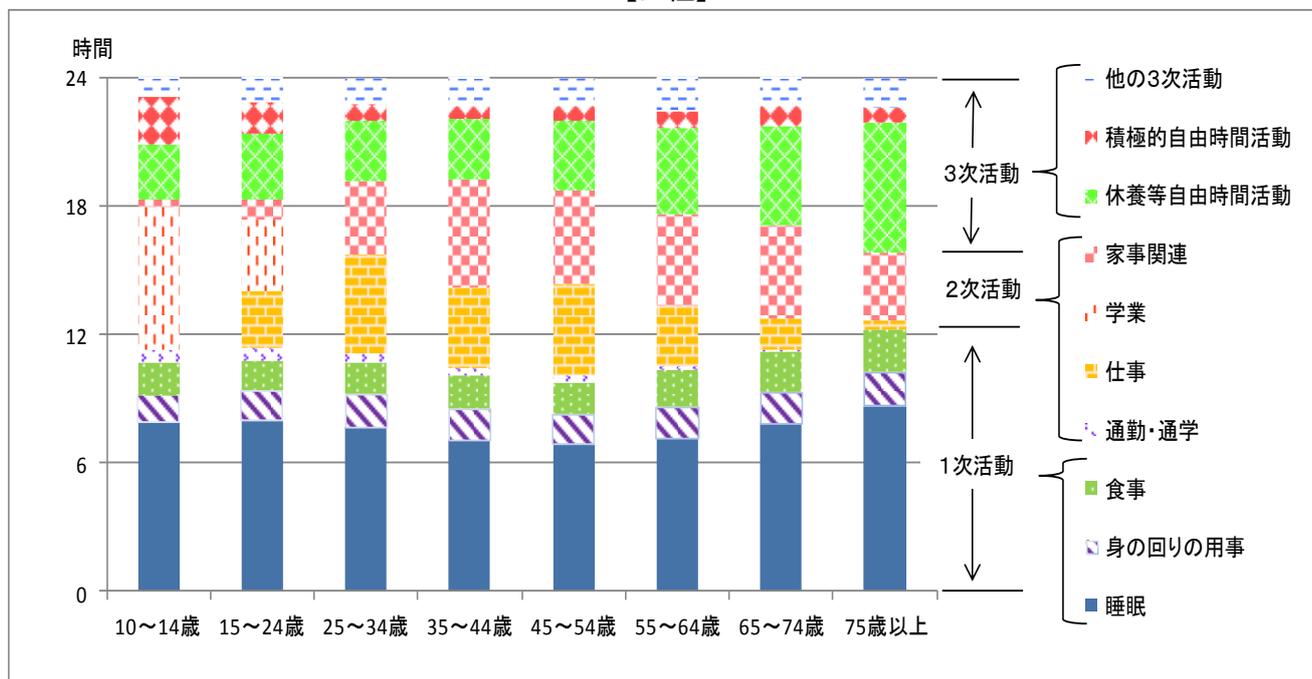
また、25歳以上については男性は仕事の時間が多く、女性は家事関連の時間が長くなっている。(図1-2)

図1-2 男女、年齢階級、行動の種類別生活時間一週全体

【男性】



【女性】



(6) 本県は全国と比べ1、2次活動時間が長く、3次活動時間が短い。

本県と全国を比べると、1次活動時間は5分、2次活動時間は3分長く、3次活動時間は8分短くなっている。また行動種類別にみると、睡眠、学業、家事などの時間が長く、通勤・通学、趣味・娯楽などは短くなっている。

男性を全国と比べると、1次活動時間は9分長く、2次活動時間は9分短く、3次活動時間は同じとなっている。行動種類別にみると、睡眠、学業、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などの時間が長く、通勤・通学、仕事、趣味・娯楽などは短くなっている。

女性を全国と比べると、1次活動時間は2分長く、2次活動時間は14分長く、3次活動時間は14分短くなっている。行動種類別にみると、仕事などの時間が長く、通勤・通学、趣味・娯楽などは短くなっている。(表1-4)

表1-4 男女、行動の種類別生活時間(宮崎、全国)一週全体

(時間、分)

	総数			男			女		
	宮崎県	全国	差	宮崎県	全国	差	宮崎県	全国	差
1次活動	10.45	10.40	0.05	10.42	10.33	0.09	10.48	10.46	0.02
睡眠	7.47	7.42	0.05	7.57	7.49	0.08	7.39	7.36	0.03
身の回りの用事	1.19	1.19	0.00	1.08	1.09	-0.01	1.28	1.29	-0.01
食事	1.39	1.39	0.00	1.37	1.36	0.01	1.40	1.42	-0.02
2次活動	6.56	6.53	0.03	6.40	6.49	-0.09	7.11	6.57	0.14
通勤・通学	0.20	0.31	-0.11	0.25	0.40	-0.15	0.15	0.23	-0.08
仕事	3.36	3.33	0.03	4.42	4.46	-0.04	2.38	2.23	0.15
学業	0.45	0.39	0.06	0.51	0.42	0.09	0.40	0.37	0.03
家事	1.32	1.27	0.05	0.20	0.18	0.02	2.35	2.32	0.03
介護・看護	0.03	0.03	0.00	0.01	0.02	-0.01	0.05	0.05	0.00
育児	0.16	0.14	0.02	0.05	0.05	0.00	0.26	0.23	0.03
買い物	0.23	0.26	-0.03	0.14	0.17	-0.03	0.31	0.35	-0.04
3次活動	6.19	6.27	-0.08	6.38	6.38	0.00	6.02	6.16	-0.14
移動(通勤・通学を除く)	0.29	0.30	-0.01	0.27	0.29	-0.02	0.30	0.30	0.00
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.31	2.27	0.04	2.41	2.31	0.10	2.23	2.24	-0.01
休養・くつろぎ	1.30	1.31	-0.01	1.33	1.31	0.02	1.29	1.31	-0.02
学習・自己啓発・訓練(学業以外)	0.09	0.12	-0.03	0.09	0.13	-0.04	0.09	0.12	-0.03
趣味・娯楽	0.35	0.44	-0.09	0.46	0.53	-0.07	0.26	0.37	-0.11
スポーツ	0.17	0.14	0.03	0.21	0.18	0.03	0.14	0.11	0.03
ボランティア活動・社会参加活動	0.04	0.04	0.00	0.04	0.04	0.00	0.04	0.04	0.00
交際・付き合い	0.19	0.19	0.00	0.19	0.18	0.01	0.19	0.20	-0.01
受診・療養	0.08	0.08	0.00	0.07	0.07	0.00	0.09	0.10	-0.01
その他	0.16	0.17	-0.01	0.13	0.15	-0.02	0.18	0.18	0.00
(再掲)									
家事関連	2.14	2.10	0.04	0.40	0.42	-0.02	3.37	3.35	0.02
休養等自由時間活動	4.01	3.58	0.03	4.14	4.02	0.12	3.52	3.55	-0.03
積極的自由時間活動	1.05	1.14	-0.09	1.20	1.28	-0.08	0.53	1.04	-0.11

2 1次活動

睡眠

(1) 睡眠時間は45～54歳の年齢階級で短い。

睡眠時間は7時間47分で、男性は7時間57分、女性は7時間39分と男性が18分長くなっている。

年齢階級別にみると、45～54歳が7時間8分と最も短くなっている。

平成18年と比べると、15～24歳が23分と大きく増加している。(図2-1)

(2) 15～24歳を除く全ての年齢階級で男性が長い。

男女、年齢階級別にみると、15～24歳を除く全ての年齢階級で男性が長くなっている。特に、55～64歳では男性が34分長くなっている。(図2-2)

図2-1 年齢階級別睡眠時間(平成18年、23年)一週全体、10歳以上

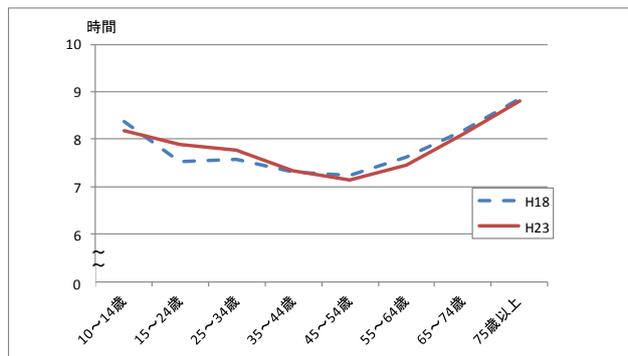
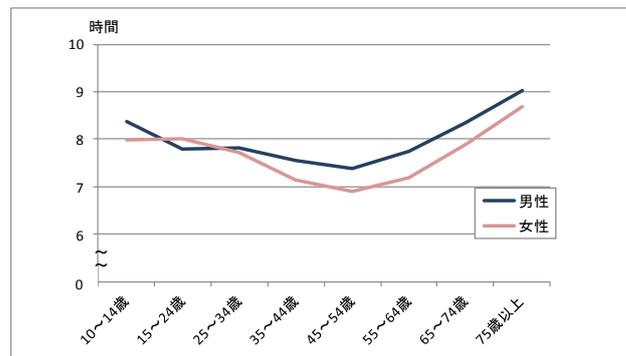


図2-2 男女、年齢階級別睡眠時間一週全体、10歳以上



(3) 全国と比べると、5分長い。

全国と比べると本県は5分長く、47都道府県中第18位となっている。

曜日別にみると、平日で8分、日曜日で1分全国を上回り、土曜日で2分下回っている。(表2-1)

表2-1 本県と全国の曜日別睡眠時間—10歳以上 (時間、分)

	総数		男		女	
	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国
週全体	7.47	7.42	7.57	7.49	7.39	7.36
平日	7.39	7.31	7.48	7.37	7.31	7.26
土曜日	8.00	8.02	8.08	8.10	7.53	7.54
日曜日	8.17	8.16	8.29	8.26	8.06	8.06

3 2次活動

仕事

(1) 仕事時間は5年前と比べ、45～54歳を除く全てで減少。

有業者（15歳以上。以下同じ。）の仕事時間は6時間8分で、男性は7時間1分、女性は5時間7分となっている。

年齢階級別にみると、45～54歳が6時間50分と最も長くなっている。

平成18年と比べると、45～54歳を除く全ての年齢階級で減少しており、特に15～24歳は1時間20分と大きく減少している。（図3-1、表3-1）

(2) 男性では35～44歳、女性では25～34歳が最も長い。

有業者について、男女、年齢階級別にみると、男性では35～44歳が7時間52分、女性では25～34歳が5時間48分で最も長くなっている。（図3-2、表3-1）

図3-1 年齢階級別仕事時間(平成18年、23年)一週全体、有業者

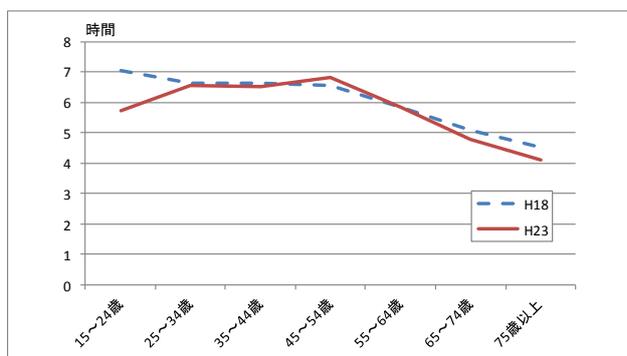


図3-2 男女、年齢階級別仕事時間一週全体、有業者

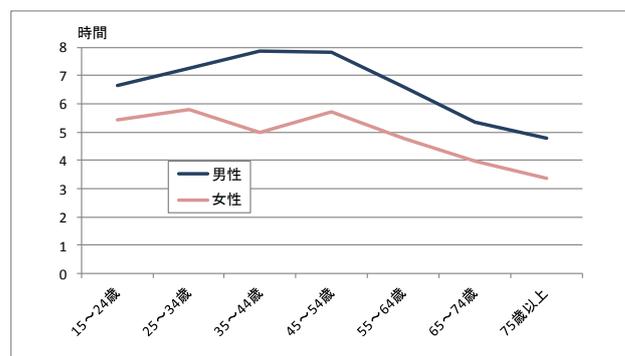


表3-1 男女、年齢階級別仕事時間(平成18年、23年)一週全体、有業者

(時間、分)

	総数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
総数	6.17	6.08	-0.09	7.06	7.01	-0.05	5.24	5.07	-0.17	1.54
15～24歳	7.03	5.43	-1.20	7.48	6.39	-1.09	6.27	5.27	-1.00	1.12
25～34歳	6.39	6.33	-0.06	7.38	7.16	-0.22	5.34	5.48	0.14	1.28
35～44歳	6.37	6.32	-0.05	7.34	7.52	0.18	5.30	4.59	-0.31	2.53
45～54歳	6.34	6.50	0.16	7.34	7.50	0.16	5.32	5.42	0.10	2.08
55～64歳	5.51	5.50	-0.01	6.41	6.36	-0.05	4.53	4.46	-0.07	1.50
65～74歳	5.06	4.47	-0.19	5.14	5.21	0.07	4.58	3.59	-0.59	1.22
75歳以上	4.31	4.07	-0.24	5.04	4.47	-0.17	3.36	3.22	-0.14	1.25

(3) 全国と比べると、6分長い。

有業者について、仕事を時間を全国と比べると本県は6分長く、47都道府県中第19位となっている。

曜日別にみると、平日で10分全国を下回り、土曜日で55分、日曜日で37分上回っている。(図3-3、表3-2)

図3-3 総数、都道府県別仕事時間一週全体、有業者

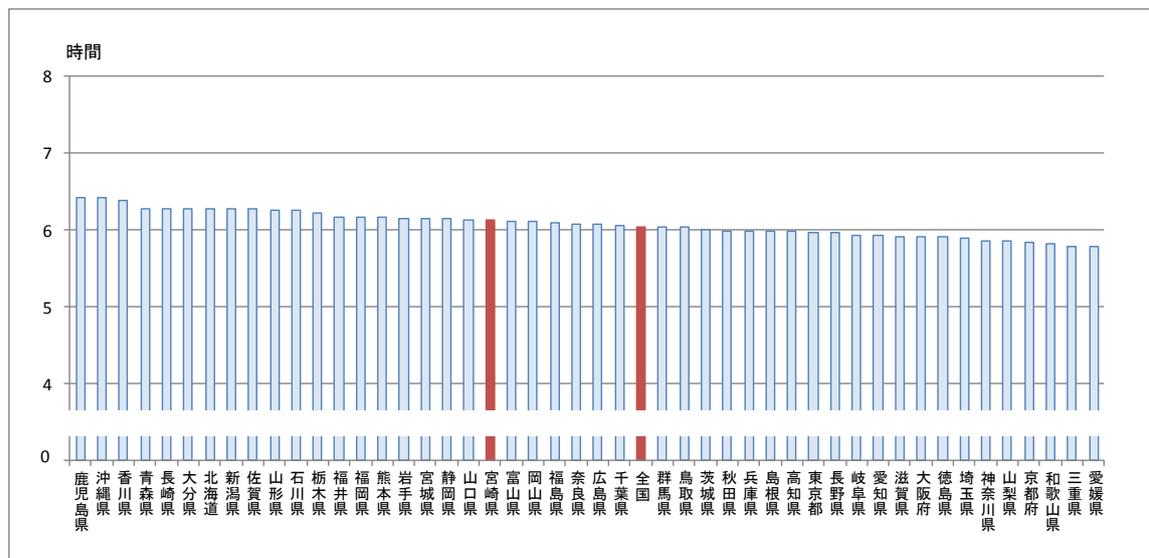


表3-2 本県と全国の曜日別仕事時間一有業者 (時間、分)

	総数		男		女	
	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国
週全体	6.08	6.02	7.01	6.56	5.07	4.50
平日	6.59	7.09	8.02	8.17	5.49	5.41
土曜日	4.56	4.01	5.38	4.35	4.08	3.16
日曜日	3.01	2.24	3.22	2.37	2.37	2.07

(4) 仕事時間は男女共に平成18年で増加したが、23年で再び減少。

有業者について、過去25年間の仕事時間の推移を男女別にみると、男女共に平成13年まで減少が続き、18年は増加に転じたが、23年は再び減少となっている。

(図3-4、表3-3)

図3-4 男女別仕事時間の推移(昭和61年～平成23年)一週全体、有業者

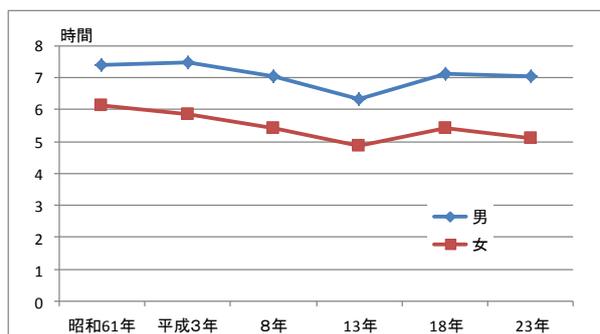


表3-3 男女別仕事時間の推移(昭和61年～平成23年)一週全体、有業者

	総数	男	女
昭和61年	6.49	7.24	6.07
平成3年	6.43	7.28	5.52
平成8年	6.18	7.02	5.25
平成13年	5.39	6.20	4.52
平成18年	6.17	7.06	5.24
平成23年	6.08	7.01	5.07

家事関連

(1) 家事関連時間は5年前と比べ、10～14歳、65歳以上を除く全てで増加。
 家事関連時間は2時間14分で、男性は40分、女性は3時間37分となっている。
 年齢階級別にみると、35～44歳が2時間54分と最も長くなっている。
 平成18年と比べると、10～14歳、65歳以上を除く全ての年齢階級で増加しており、
 特に35～44歳は30分増加している。また女性は、育児時間の増加が大きい。
 (図3-5、表3-4、表3-5)

(2) 全ての年齢階級で女性が長い。
 男女、年齢階級別にみると、全ての年齢階級で女性が長くなっている。特に、35～
 44歳では女性が4時間21分長くなっている。(図3-6、表3-4)

図3-5 年齢階級別家事関連時間
 (平成18年、23年)一週全体、10歳以上

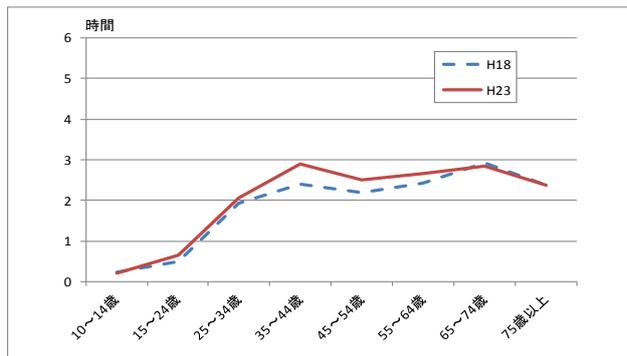


図3-6 男女、年齢階級別家事関連時間
 一週全体、10歳以上

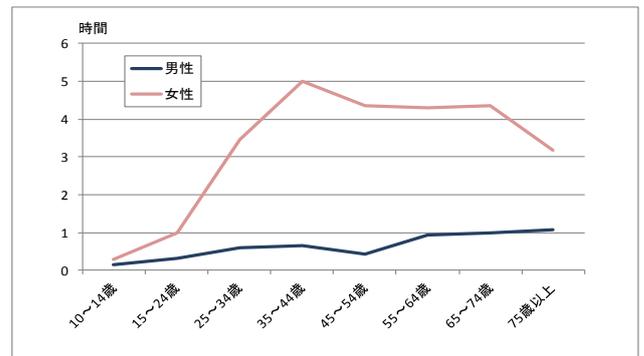


表3-4 男女、年齢階級別家事関連時間(平成18年、23年)一週全体 (時間、分)

	総数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
総数	2.03	2.14	0.11	0.40	0.40	0.00	3.15	3.37	0.22	-2.57
10～14歳	0.14	0.13	-0.01	0.08	0.08	0.00	0.21	0.17	-0.04	-0.09
15～24歳	0.29	0.39	0.10	0.17	0.19	0.02	0.41	0.59	0.18	-0.40
25～34歳	1.56	2.04	0.08	0.35	0.36	0.01	3.14	3.27	0.13	-2.51
35～44歳	2.24	2.54	0.30	0.32	0.39	0.07	4.05	5.00	0.55	-4.21
45～54歳	2.12	2.30	0.18	0.23	0.25	0.02	3.55	4.22	0.27	-3.57
55～64歳	2.26	2.40	0.14	0.44	0.56	0.12	4.01	4.18	0.17	-3.22
65～74歳	2.56	2.51	-0.05	1.27	1.00	-0.27	4.11	4.22	0.11	-3.22
75歳以上	2.23	2.22	-0.01	1.13	1.04	-0.09	3.06	3.11	0.05	-2.07

表3-5 男女別、家事関連時間内訳(平成18年、23年)一週全体 (時間、分)

	総数			男			女		
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減
家事	1.29	1.32	0.03	0.24	0.20	-0.04	2.26	2.35	0.09
介護・看護	0.04	0.03	-0.01	0.02	0.01	-0.01	0.05	0.05	0.00
育児	0.09	0.16	0.07	0.03	0.05	0.02	0.14	0.26	0.12
買い物	0.21	0.23	0.02	0.11	0.14	0.03	0.30	0.31	0.01

(3) 育児時間は 47 都道府県中第 5 位。

家事関連時間について全国と比べると本県は 4 分長く、47 都道府県中第 11 位となっている。家事関連時間の中身をみると、家事は 47 都道府県中第 7 位、介護・看護は 20 位、育児は 5 位、買い物は 32 位となっている。

曜日別にみると、平日で 9 分全国を上回り、土曜日で 5 分、日曜日で 2 分下回っている。

図 3-7 総数、都道府県別家事関連時間一週全体、10 歳以上

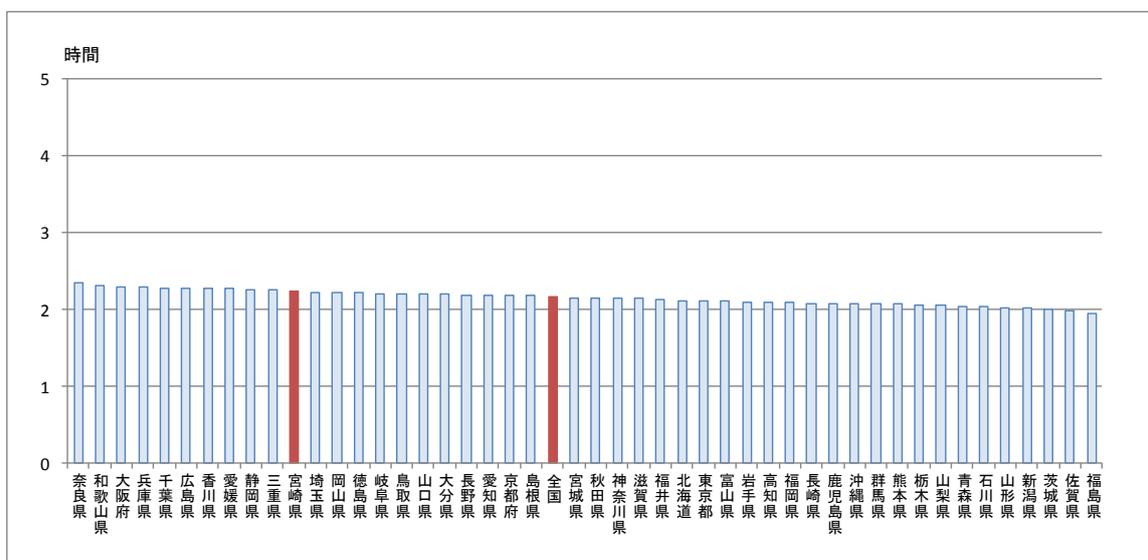


表 3-6 本県と全国の曜日別家事関連時間一週全体、10 歳以上 (時間、分)

	総数		男		女	
	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国
週全体	2.14	2.10	0.40	0.42	3.37	3.35
平日	2.13	2.04	0.37	0.33	3.38	3.32
土曜日	2.14	2.19	0.46	0.56	3.31	3.36
日曜日	2.25	2.27	0.59	1.08	3.41	3.43

(4) 家事関連時間は男性は増加傾向、女性は 18 年に減少したが、23 年再び増加。

比較可能な年齢区分である 15 歳以上の人について、過去 25 年間の家事関連時間の推移を男女別にみると、男性は増加傾向、女性は 18 年に最も低くなったが、23 年は再び増加している。(図 3-8、表 3-7)

図 3-8 男女別家事関連時間の推移 (昭和 61 年～平成 23 年) 一週全体、15 歳以上

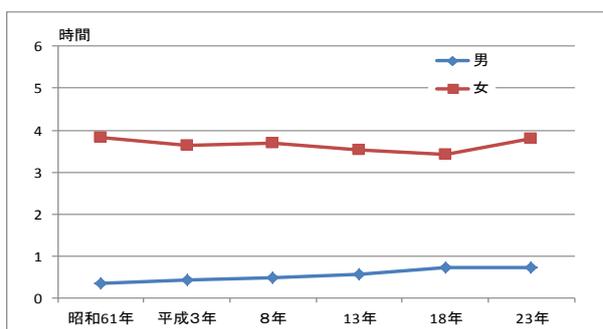


表 3-7 男女別家事関連時間の推移 (昭和 61 年～平成 23 年) 一週全体、15 歳以上 (時間、分)

	総数	男	女
昭和 61 年	2.13	0.21	3.50
平成 3 年	2.09	0.26	3.38
平成 8 年	2.12	0.29	3.41
平成 13 年	2.09	0.34	3.31
平成 18 年	2.09	0.44	3.25
平成 23 年	2.21	0.43	3.48

4 3次活動

休養等自由時間活動

(1) 休養等自由時間活動の時間は5年前と比べ、10～24歳を除く全てで増加。

休養等自由時間活動の時間は4時間1分で、男性は4時間14分、女性は3時間52分となっている。

平成18年と比べると、10～24歳を除く全ての年齢階級で増加しており、特に55歳以上の各年齢階級では20分以上増加している。(図4-1、表4-1、表4-2)

(2) 全ての年齢階級で男性が長い。

男女、年齢階級別にみると、全ての年齢階級で男性が長くなっている。特に、25～34歳と65～74歳では男性が1時間以上長くなっている。(図4-2、表4-1)

図4-1 年齢階級別休養等自由時間活動
(平成18年、23年)一週全体、10歳以上

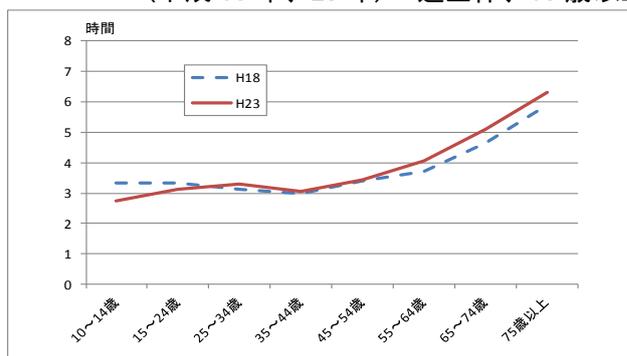


図4-2 男女、年齢階級別休養等自由時間活動
一週全体、10歳以上

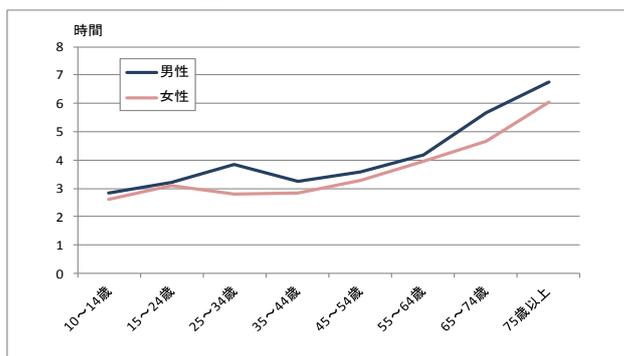


表4-1 男女、年齢階級別休養等自由時間活動(平成18年、23年)一週全体 (時間、分)

	総数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
総数	3.49	4.01	0.12	3.54	4.14	0.20	3.45	3.52	0.07	0.22
10～14歳	3.19	2.45	-0.34	3.23	2.51	-0.32	3.13	2.38	-0.35	0.13
15～24歳	3.19	3.08	-0.11	3.22	3.12	-0.10	3.16	3.05	-0.11	0.07
25～34歳	3.08	3.18	0.10	3.02	3.51	0.49	3.13	2.48	-0.25	1.03
35～44歳	3.00	3.03	0.03	3.01	3.16	0.15	2.59	2.50	-0.09	0.26
45～54歳	3.24	3.26	0.02	3.37	3.36	-0.01	3.12	3.17	0.05	0.19
55～64歳	3.43	4.04	0.21	3.59	4.10	0.11	3.29	3.58	0.29	0.12
65～74歳	4.39	5.06	0.27	5.00	5.41	0.41	4.22	4.39	0.17	1.02
75歳以上	5.54	6.19	0.25	6.03	6.46	0.43	5.50	6.02	0.12	0.44

表4-2 男女別、休養等自由時間活動内訳(平成18年、23年)一週全体 (時間、分)

	総数			男			女		
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.23	2.31	0.08	2.29	2.41	0.12	2.18	2.23	0.05
休養・くつろぎ	1.26	1.30	0.04	1.25	1.33	0.08	1.27	1.29	0.02

(3) 平日は全国より長い、土、日曜日は全国より短い。

休養等自由時間活動の時間について全国と比べると本県は3分長く、47都道府県中第21位となっている。休養等自由時間活動の中身をみると、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌は47都道府県中第18位、休養・くつろぎは29位となっている。

曜日別にみると、平日で9分全国を上回り、土曜日で10分、日曜日で11分下回っている。(図4-3、表4-3)

図4-3 総数、都道府県別休養等自由時間活動一週全体、10歳以上

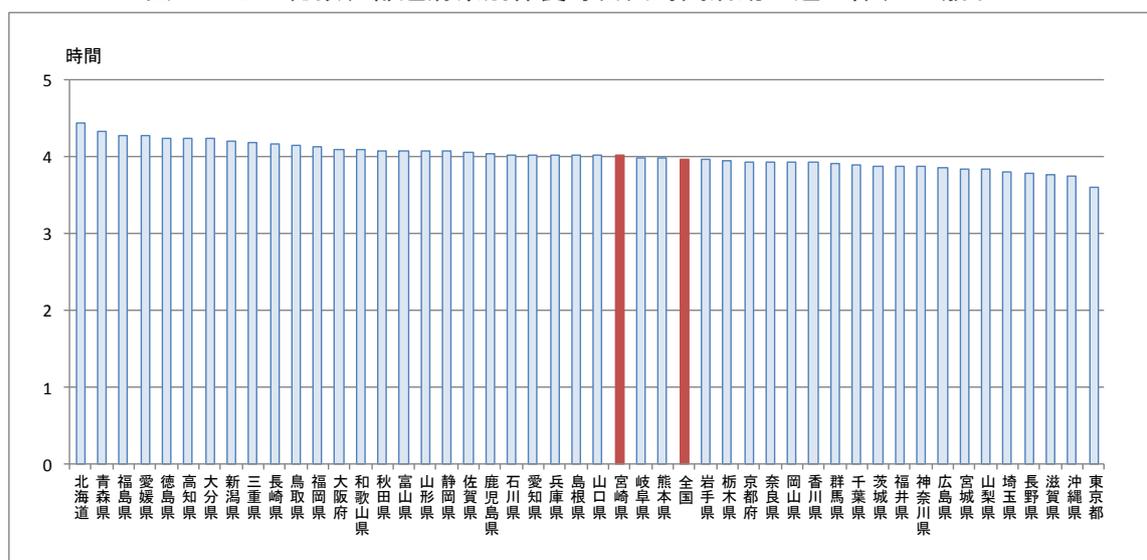


表4-3 本県と全国の曜日別休養等自由時間活動-10歳以上 (時間、分)

	総数		男		女	
	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国
週全体	4.01	3.58	4.14	4.02	3.52	3.55
平日	3.49	3.40	3.58	3.37	3.41	3.43
土曜日	4.25	4.35	4.38	4.49	4.14	4.21
日曜日	4.40	4.51	5.03	5.17	4.19	4.28

(4) 男女共に18年は減少したが、23年は過去25年間で最も長い。

比較可能な年齢区分である15歳以上の人について、過去25年間の休養等自由時間活動の時間の推移を男女別にみると、男女共に18年は減少したが、23年は過去25年間で最も長くなっている。(図4-4、表4-4)

図4-4 男女別休養等自由時間活動の推移 (昭和61年~平成23年) 一週全体、15歳以上

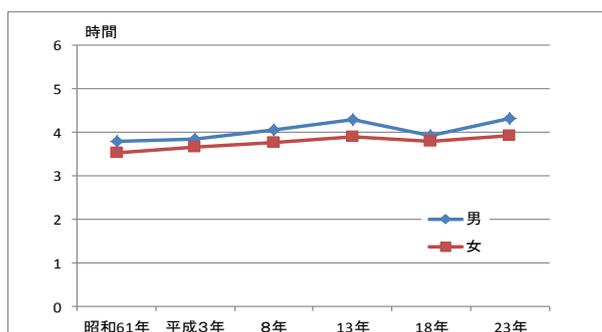


表4-4 男女別休養等自由時間活動の推移 (昭和61年~平成23年)-週全体、15歳以上 (時間、分)

	総数	男	女
昭和61年	3.39	3.48	3.32
平成3年	3.44	3.51	3.40
平成8年	3.53	4.03	3.45
平成13年	4.05	4.17	3.54
平成18年	3.50	3.55	3.47
平成23年	4.06	4.19	3.55

積極的自由時間活動

(1) 積極的自由時間活動の時間は5年前と比べ、15～24歳を除く全てで減少。

積極的自由時間活動の時間は1時間5分で、男性は1時間20分、女性は53分となっている。

年齢階級別にみると、10～14歳が2時間14分と最も長くなっている。

平成18年と比べると、15～24歳を除く全ての年齢階級で減少している。

(図4-5、表4-5、表4-6)

(2) 10～14歳を除き全ての年齢階級で男性が長い。

男女、年齢階級別にみると、10～14歳を除く全ての年齢階級で男性が長くなっている。特に、15～24歳では男性が1時間以上長くなっている。(図4-6、表4-5)

図4-5 年齢階級別積極的自由時間活動
(平成18年、23年)一週全体、10歳以上

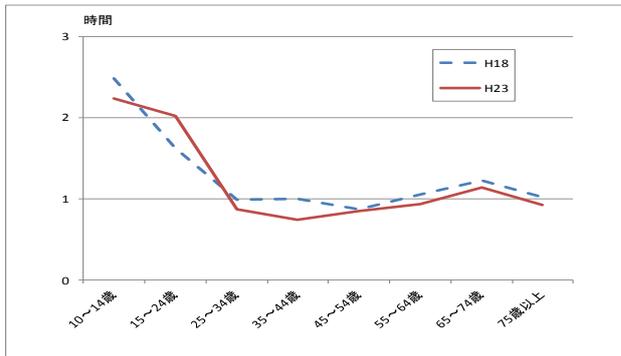


図4-6 男女、年齢階級別積極的自由時間活動
一週全体、10歳以上

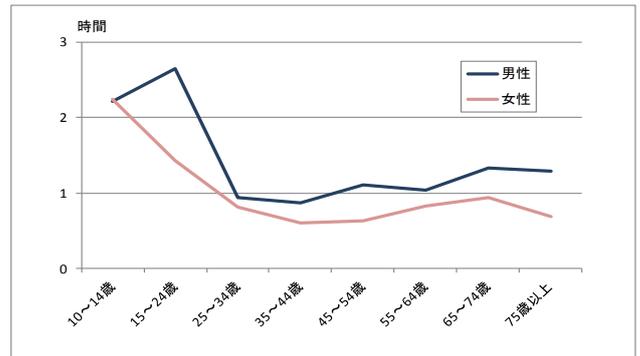


表4-5 男女、年齢階級別積極的自由時間活動(平成18年、23年)一週全体 (時間、分)

	総数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
総数	1.10	1.05	-0.05	1.24	1.20	-0.04	0.59	0.53	-0.06	0.27
10～14歳	2.29	2.14	-0.15	2.39	2.13	-0.26	2.16	2.14	-0.02	-0.01
15～24歳	1.37	2.01	0.24	1.43	2.39	0.56	1.30	1.26	-0.04	1.13
25～34歳	0.59	0.52	-0.07	1.19	0.56	-0.23	0.43	0.49	0.06	0.07
35～44歳	1.00	0.44	-0.16	1.10	0.52	-0.18	0.51	0.36	-0.15	0.16
45～54歳	0.52	0.51	-0.01	1.04	1.06	0.02	0.39	0.38	-0.01	0.28
55～64歳	1.03	0.56	-0.07	1.01	1.02	0.01	1.05	0.50	-0.15	0.12
65～74歳	1.13	1.08	-0.05	1.41	1.20	-0.21	0.50	0.56	0.06	0.24
75歳以上	1.01	0.55	-0.06	1.17	1.17	0.00	0.53	0.41	-0.12	0.36

表4-6 男女別、積極的自由時間活動内訳(平成18年、23年)一週全体 (時間、分)

	総数			男			女		
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減
学習・自己啓発・訓練(学業以外)	0.10	0.09	-0.01	0.12	0.09	-0.03	0.09	0.09	0.00
趣味・娯楽	0.37	0.35	-0.02	0.43	0.46	0.03	0.32	0.26	-0.06
スポーツ	0.19	0.17	-0.02	0.24	0.21	-0.03	0.14	0.14	0.00
ボランティア活動・社会参加活動	0.04	0.04	0.00	0.05	0.04	-0.01	0.04	0.04	0.00

(3) スポーツの時間は47都道府県中第2位、趣味・娯楽は47位。

積極的自由時間活動の時間について全国と比べると本県は9分短く、47都道府県中第42位となっている。積極的自由時間活動の中身をみると、学習・自己啓発・訓練は47都道府県中40位、趣味・娯楽は47位、スポーツは2位、ボランティア活動・社会参加活動は20位となっている。

曜日別にみると、平日で9分、土曜日で8分、日曜日で9分全国を下回っている。
(図4-7、表4-7)

図4-7 総数、都道府県別積極的自由時間活動一週全体、10歳以上

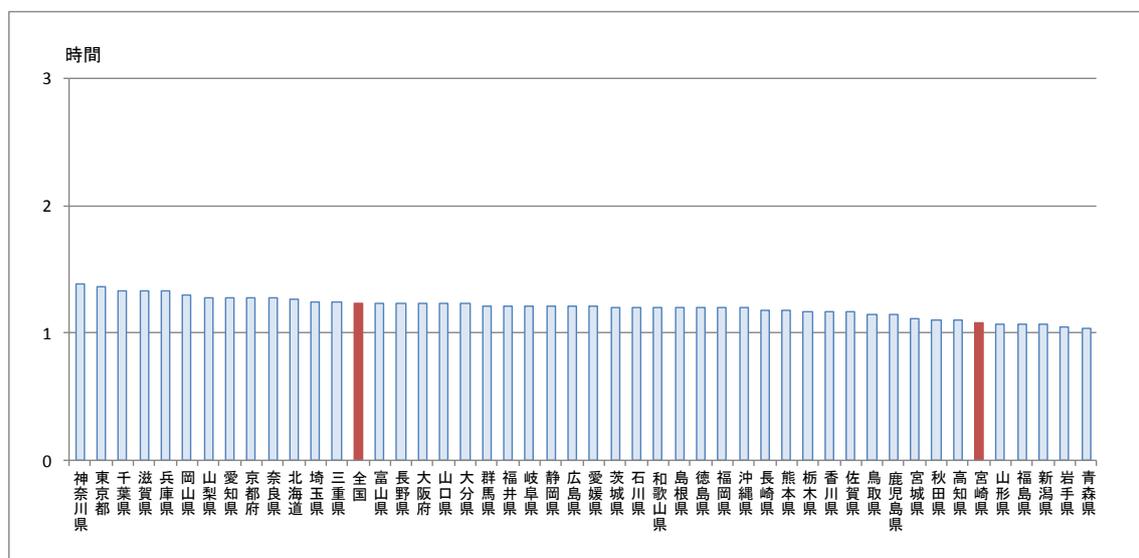


表4-7 本県と全国の曜日別積極的自由時間活動—10歳以上 (時間、分)

	総数		男		女	
	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国
週全体	1.05	1.14	1.20	1.28	0.53	1.04
平日	0.54	1.03	1.02	1.10	0.45	0.55
土曜日	1.28	1.36	1.50	1.58	1.09	1.14
日曜日	1.45	1.54	2.16	2.24	1.17	1.26

(4) 男性は1時間10分前後、女性は50分前後で推移している。

比較可能な年齢区分である15歳以上の人について、過去25年間の積極的自由時間活動の時間の推移を男女別にみると、男性は1時間10分前後で、女性は50分前後で推移している。(図4-8、表4-8)

図4-8 男女別積極的自由時間活動の推移 (昭和61年～平成23年)一週全体、15歳以上

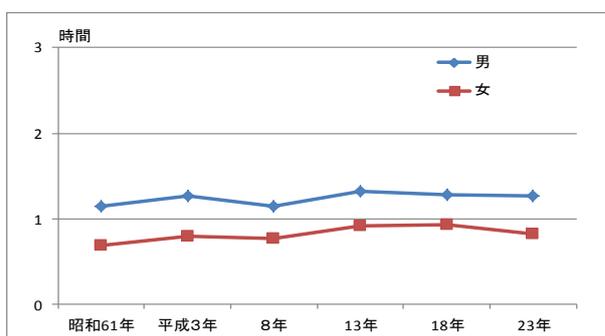


表4-8 男女別積極的自由時間活動の推移 (昭和61年～平成23年)一週全体、15歳以上

	総数	男	女
昭和61年	0.53	1.09	0.41
平成3年	1.01	1.16	0.48
平成8年	0.57	1.09	0.46
平成13年	1.06	1.19	0.55
平成18年	1.06	1.17	0.56
平成23年	1.02	1.16	0.49

